

高知県で注意すべき
外来種リスト

令和2（2020）年7月

高知県

目次

1. 高知県で注意すべき外来種リストの概要	1
1.1 目的	1
1.2 選定および評価の考え方	2
1.2.1 外来種の定義	2
1.2.2 対象範囲	2
1.2.3 選定手順	3
1.2.4 評価	3
1.3 選定結果	7
1.3.1 高知県で確認されている外来種	7
1.3.2 高知県で注意すべき外来種	7
1.4 検討体制	8
2. 高知県で注意すべき外来種リスト	9
2.1 防除対策外来種	9
2.2 重点啓発外来種	11
2.3 産業管理外来種	16
2.4 定着予防外来種	18
3. 外来種への対策	19
3.1 外来種対策の基本的な考え方	19
3.1.1 高知県における外来種対策の基本的な考え方	19
3.1.2 指針と目標	19
3.2 外来種対策	20
3.2.1 目標の設定による効果的な防除	20
3.2.2 対策事例	20
参考文献	22

巻末資料 1 高知県内で確認されている外来種リスト（1次リスト）

巻末資料 2 外来種対策に関する情報

1. 高知県で注意すべき外来種リストの概要

1.1 目的

高知県内には多くの野生の動植物が生息・生育し、多種多様な生態系を育んでいます。これら動植物の中には従来その地域にいた動植物ではなく、人間の活動によって他の地域から入ってきた「外来種」も少なくありません。

人間により持ち込まれた外来種は、「生物多様性国家戦略 2012-2020」の中で、生物多様性に損失をもたらす4つの危機のうちの一つとされています。外来種の中には、野生化して自生する動植物の生息・生育を脅かしたり、近縁種との交雑による遺伝子のかく乱を引き起こしたりするなど生態系に影響を及ぼすほか、田畑や森林を荒らしたり、漁業の対象となる魚などを捕食するなど農林水産業に影響を及ぼす種がいます。また、咬まれたり刺されたりすると人にショックを与えたり病気をもたらす危険な種もあり、人の生命や身体に直接的に影響を及ぼすこともあります。このように地域の生態系、人の生命または身体、農林水産業などへの被害を及ぼす、または及ぼす恐れのある種を侵略的外来種と呼び、特に深刻な被害を及ぼす種は、特定外来生物として法律により飼育や栽培などが規制されています。県内でも、人の健康に影響を及ぼすセアカゴケグモ、在来種との競合することにより生態系に影響を及ぼすオオキンケイギクといった侵略的外来種が確認されており、駆除が行われています。

外来種問題に対応するため、国では、平成 17 (2005) 年に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (以下、外来生物法)」を施行し、平成 27 (2015) 年に「外来種被害防止行動計画」を策定すると同時に「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (以下、生態系被害防止外来種リスト)」を公表しています。

本県では、平成 31 (2019) 年 3 月に「ふるさとのいのちをつなぐこうちプラン～生物多様性こうち戦略～【改訂版】」を策定し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を進めています。この取組のひとつに、外来種の侵入・定着等に関する基礎データの収集を行い、高知県版侵略的外来種リストを作成することを掲げています。

この戦略に沿って、これまでに高知県で確認されている外来種を整理し、本県の地域性や実情、国が公表した「生態系被害防止外来種リスト」を踏まえて、本県において影響や被害が大きく対策が必要な外来種を「高知県で注意すべき外来種リスト(以下、本リスト)」としてとりまとめるとともに、本県における外来種対策の基本的な考え方や指針を示しました。

本リストは、外来種についての正しい知識の周知を図ることと、関係機関、各種団体などが優先度を踏まえた侵略的な外来種の駆除・防除の対策を行うための基礎資料として活用されることを目的としたものです。

1.2 選定および評価の考え方

1.2.1 外来種の定義

外来種は、「外来種被害防止行動計画」において表 1.2.1 のとおり定義されています。

表 1.2.1 外来種被害防止行動計画における用語の定義

用語	定義
外来種	導入（意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。）によりその自然分布域（その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域）の外に生育又は生息する生物種（分類学的に異なる集団とされる、亜種、変種を含む）
国外由来の外来種	「外来種」のうち、我が国に自然分布域を有していない生物種
国内由来の外来種	我が国に自然分布域を有している（在来種）が、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種
侵略的外来種	「外来種」のうち、我が国の生態系、人の生命又は身体、農林水産業等への被害を及ぼす又は及ぼすおそれがあるもの
特定外来生物	我が国の生態系等に係る被害を及ぼす又は及ぼすおそれのあると認められる外来生物として、外来生物法に基づき指定されたもの。飼育・栽培、運搬、輸入、野外への放出、譲渡等が規制される。なお、侵略的外来種の一部について、法に基づいて特定外来生物に指定している。

上記の定義を踏まえ、本リストでは、以下に該当する外来種を掲載の対象としました。

- 明治時代以降に人間活動によって本県に侵入または導入され、原産地が県外（国外、国内を問わない）の種。明治時代以前に人間活動によって侵入または導入された種のうち生態系などへの被害が顕著なものも対象とする。
- 本県の在来種の個体群が絶滅した後、県外から本県に侵入または導入された集団を含む種。
- 本県の在来種であるが、本県の自然分布域以外の地域に導入された種。
- 特定外来生物など生態系などへの被害が顕著なものなどの理由で特に注意すべき種のうち、本県に侵入していないまたは導入されていないが近隣する県で確認されている種。
- 本県の産業や園芸などでの利用ならびに利害の有無に関わらず、上記の定義を踏まえた上で外来種とすることが合理的と判断した種。

1.2.2 対象範囲

対象とした生物群は下記の9分類群に整理しました。なお、植物は一時的に逸出した園芸種、昆虫類は農業害虫、魚類は種苗放流などが行われる産業利用種についても選定範囲としました。外来種との交雑種も選定範囲に含めています。

- ①哺乳類 ④両生類 ⑦クモ・サソリ類
- ②鳥類 ⑤魚類（淡水、汽水） ⑧その他の無脊椎動物（昆虫・クモ・サソリ類以外）
- ③爬虫類 ⑥昆虫類 ⑨植物（維管束植物）

1.2.3 選定手順

本リストは以下の手順で作成しています。

■1次リストの作成

本県における外来種の生息・生育に関する調査資料などをもとに高知県で確認されている外来種を整理しました。また、本県では確認されていない生態系などへの被害が顕著な外来種については、他の都道府県が作成した外来種リストなどの資料を参考に四国内など近隣での確認状況を整理し、専門家の意見も踏まえたうえで必要に応じて未確認種として1次リストに加えしました。作成した1次リストは巻末資料1に整理しています。

■掲載候補種の抽出

作成した1次リストから生態系被害防止外来種リスト掲載種を参考に本県で注意すべき外来種を抽出しました。

■評価および選定

上記で抽出した種について、生物学的条件、自然環境的条件、また社会経済的条件などの評価を行い、本リストに掲載する種を選定しました。掲載種については、カテゴリ区分、原産地や本県での分布などの情報を整理しました。

1.2.4 評価

1) 評価基準

本リスト掲載種として抽出した種は、表 1.2.2 に示す生物学的条件、自然環境的条件、また社会経済的条件などの項目について評価を行いました。なお、評価項目および評価方法は、基本的に「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト補足資料（環境省）」に準じ、「和歌山県の外来種リスト（2019年3月）」など他県が作成したリストも参考にしています。

2) カテゴリ区分

本リスト掲載種は、対策の優先度を明確にするため、表 1.2.3 に示す「防除対策外来種」、「重点啓発外来種」、「産業管理外来種」、「定着予防外来種」の4つのカテゴリに区分しました。なお、カテゴリは、先の評価結果を踏まえて、図 1.2.1 に示す手順に従って区分しました。

表 1.2.2 評価項目および評価方法

		評価項目		対象生物群		評価方法
				動物	植物	
定着段階	分布拡大期 ～まん延期	本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。 本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。		○	○	
	定着初期／ 限定分布	本県の一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおおそれはあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長い潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。		○	○	
	産業利用	本県において産業または公益的役割において重要となっており、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。		○	○	「○」：該当する
	消滅・根絶	過去において本県に侵入し野生化した種、消滅または根絶した種。		○	○	
	未定着	飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報がない種。 野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種（動物）、逸出の記録が少数ある種（植物）も含む。 本県で毎年または不定期に確認されるが越冬できさない種（昆虫）は未定着とした。		○	○	
定着の可能性 ※未定着種のみ対象		<p>定着の可能性</p> <p>本県に未定着だが四国内など近隣で定着が確認されており、下記①～④の生態的特性から定着する可能性が高い種。 ①気候適合性：亜熱帯、暖温帯、冷温帯、亜寒帯に生息・生育する。 ②環境適合性：森林、草原、湿地、乾燥地（河川、海岸など）、塩湿地、荒地、河川、湖沼、農耕地、都市などに生息・生育する。※自然生態系への影響を優先する場合は農耕地・都市以外のものに絞る。 ③繁殖特性：本県の環境下で繁殖（有性・無性含む）。多量のシードバンクを形成する。 ④食性：本県に餌が存在する。</p> <p>導入の可能性</p> <p>非意図的な付着などによる導入も含め、利用を通して本県への導入・定着の潜在的可能性が高いと判断される種。 ①生体、散布体で大量に輸入されている、又は今後大量に輸入される可能性が高い種。 ②大量に輸入されている物資などに非意図的に混入・付着している可能性が高い種。</p>	○	○	「○」：定着・導入の可能性が高い	
生態系被害 の甚大性		生態系被害の可能性に関する情報、潜在的な被害の甚大性の観点から本県における被害の報告だけでなく、国内外における被害報告、重要な生息・生育環境における定着・優占の可能性を考慮して、被害の甚大性を評価する。		○	○	
		<p>競合</p> <p>①希少種、固有種、有用種、生態系を構成する主要な在来種との競合が県内外で報告されているか、同一の資源（餌・環境）を利用する。 ②県内外の重要な生息・生育環境で高密度化、優占が知られている。他種の生育を阻害する。</p> <p>交雑</p> <p>本県に同属・近縁の在来種が存在し、交雑による遺伝的攪乱の可能性がある。</p> <p>捕食・摂食</p> <p>県内外の情報から在来種を大量に捕食する可能性があるかと判断される。</p>	○	○	「◎」：情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。 「○」：情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。 「×」：情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。 「－」：情報がないもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。	
分布拡大・拡散 の可能性		侵入・定着した場合に分布拡大・拡散しやすいと予想される種は、優先的にリストに掲載する。		○	○	
		<p>分散能力</p> <p>①種子の散布距離が大きい（風散布、水散布、もしくは動物散布の中で種子散布距離が大きいものが本県に存在する）。 ②散布体が小さい、物陰に隠れる性質があるなど、発見が困難である。</p> <p>繁殖力</p> <p>繁殖力が強く、国内外の例から分布拡大の抑制が困難と予想される。</p> <p>気候・環境への適合性</p> <p>気候・環境に適合し、分布拡大の可能性が高い。</p> <p>永続性</p> <p>自然環境下で個体群が永続的に維持される。</p>	○	○		
重要な地域 への影響		国立公園や県立自然公園などの原生的自然や固有種・絶滅危惧種などの原生的自然や固有種・絶滅危惧種などの原生的自然や固有種・絶滅危惧種などがある可能性が与える可能性がある。		○	○	
特に問題となる被害		人体	人体に対する強力な毒を有するなど、人的被害が大きいと予想される。	○	○	
		経済・産業	国内外の事例から、野外に定着した場合に、農林水産業、社会経済などに甚大な影響を与える可能性があり特に対応が必要となる。	○	○	
利用による逸出、付着・混入による 拡散の可能性		利用による逸出	①本県で、生き餌、実験試料などとして生体、散布体で大量に使用されている。 ②野外での飼育・放流・播種が行われており、拡散の危険性が高い。 ③管理放棄の起こりやすさや、管理の困難性などから逸出の危険性が高い。	○	○	
		混入・付着による拡散	流通する物資などに非意図的に混入・付着している可能性が高い。	○	○	
対策の実効性・実行可能性		防除手法が開発されている、又は開発される見込みがあるなど、一定程度の見込みがあるなど、対策の目標を立て得る。	○	○	○	「○」：防除手法あり、または開発される可能性あり。

表 1.2.3 高知県で注意すべき外来種リストのカテゴリ

カテゴリ区分		定義	選定基準
定着	防除対策外来種	本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。	<p>本県に定着が確認され、「対策の実効性・実行可能性」が「○」と評価されており、以下の評価項目のいずれかに該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生態系被害の甚大性：「◎」と評価または複数の項目で「○」と評価。 ◆重要な地域への影響：「◎」と評価。 ◆特に問題となる被害（「人体」「経済・産業」）：「◎」と評価。
	重点啓発外来種	本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除（野外での取り除き、分布拡大の防止など）、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。	<p>本県に定着が確認されており、以下の評価項目のいずれかに該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生態系被害の甚大性：「◎」と評価または複数の項目で「○」と評価。 ◆重要な地域への影響：「◎」と評価。 ◆特に問題となる被害（「人体」「経済・産業」）：「◎」と評価。
産業利用	産業管理外来種	<p>本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。</p> <p>利用にあたっては環境省が種ごとに示す利用上の留意事項※に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。</p>	<p>本県で産業などに利用されており、以下の評価項目のいずれかに該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生態系被害の甚大性：「◎」と評価または複数の項目で「○」と評価。 ◆重要な地域への影響：「◎」と評価。 ◆特に問題となる被害（「人体」「経済・産業」）：「◎」と評価。
未定着	定着予防外来種	<p>本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。</p> <p>定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。</p>	<p>定着段階が「未定着」種のうち、「定着の可能性」が「○」と評価されており、以下の評価項目のいずれかに該当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生態系被害の甚大性：「◎」と評価または複数の項目で「○」と評価。 ◆重要な地域への影響：「◎」と評価。 ◆特に問題となる被害（「人体」「経済・産業」）：「◎」と評価。

※利用上の留意事項（16 ページ参照）

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が期待される。

なお、生態系被害防止外来種リストに掲載されている産業管理外来種の利用上の留意事項については、環境省ホームページで公開されている掲載種の付加情報を参照する。

環境省ホームページ 生態系被害防止外来種リスト 掲載種の付加情報

<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

3) カテゴリ分類の流れ

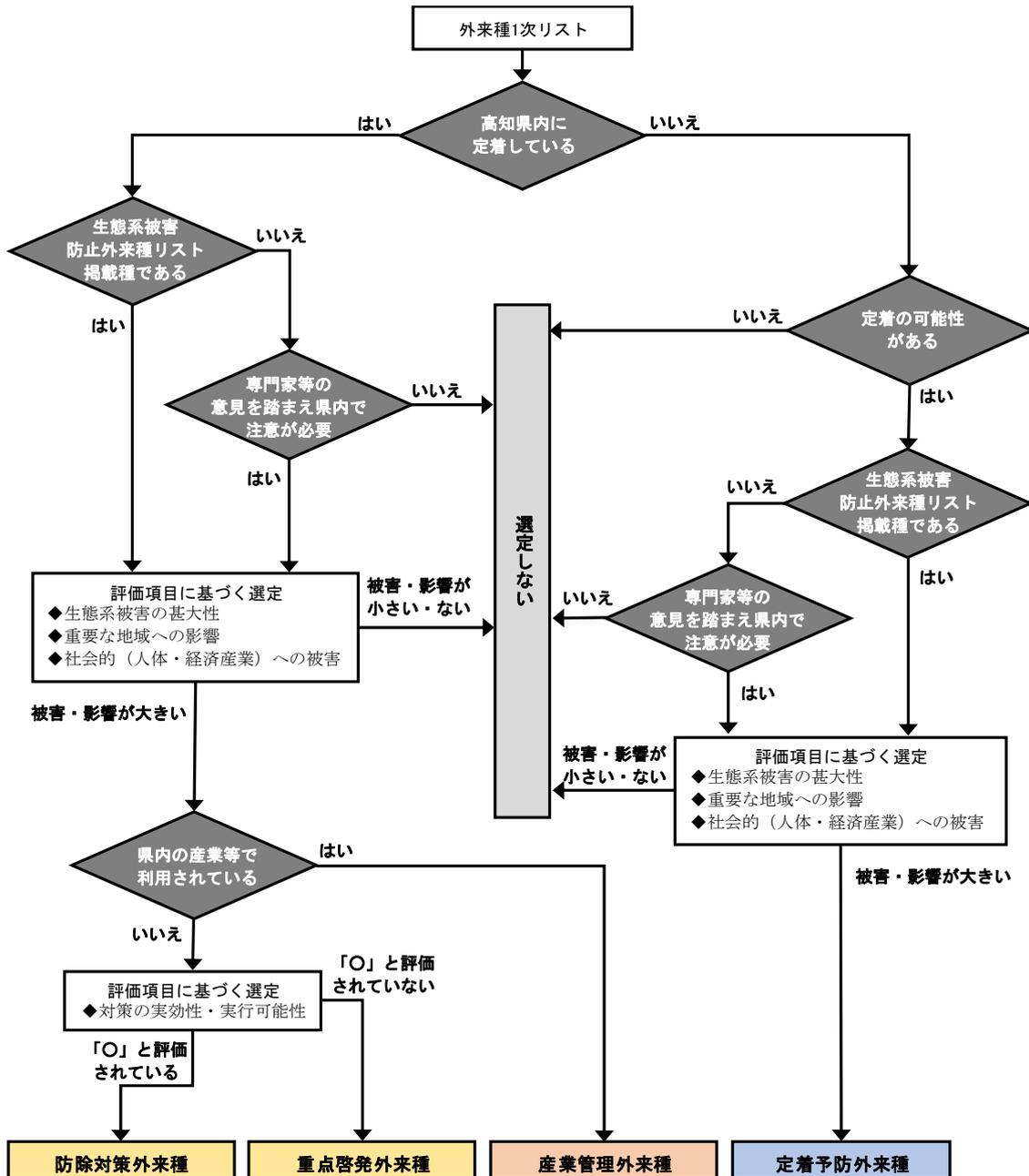


図 1.2.1 高知県で注意すべき外来種リスト カテゴリ区分の手順

1.3 選定結果

1.3.1 高知県で確認されている外来種

1次リスト掲載種は動物273種、植物730種、合計1,003種です。このうち高知県で確認されている外来種は、動物257種、植物727種、合計984種です（表1.3.1）。

表 1.3.1 一次リスト掲載種数

	動物								植物	合計
	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	クモ・サソリ類	その他の無脊椎動物		
1次リスト掲載種	20	16	11	2	43	136	5	40	※730	1,003
高知県確認種	20	15	11	2	43	125	3	38	※727	984
生態系被害防止外来種リスト掲載種	18	4	4	1	16	1	2	16	※123	185
高知県未確認種	0	1	0	0	0	11	2	2	3	19
生態系被害防止外来種リスト掲載種	0	1	0	0	0	5	2	2	3	13

※平成30年度外来種（植物）生育分布調査委託業務報告書（平成31年3月）より集計

1.3.2 高知県で注意すべき外来種

1次リスト掲載種から高知県で注意すべき外来種を抽出し、表1.3.2に示す4つのカテゴリに区分しました。

表 1.3.2 高知県で注意すべき外来種選定数

カテゴリ	動物								植物	合計
	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	クモ・サソリ類	その他の無脊椎動物		
防除対策外来種	0	1	1	1	2	40	1	2	12	60
重点啓発外来種	7	2	1	0	3	1	0	7	137	158
産業管理外来種	0	0	0	0	2	0	0	0	14	16
定着予防外来種	2	3	0	0	0	10	2	0	4	21
合計	9	6	2	1	7	51	3	9	167	255

1.4 検討体制

高知県で注意すべき外来種リストの策定にあたっては、表 1.4.1 に示す各分野の専門家の意見を踏まえ、表 1.4.2 に示す検討を行いました。

表 1.4.1 高知県外来種リスト検討会（50 音順）

氏名	現職・所属	専門分野
荒川 良	高知大学教授	昆虫
石川 慎吾	高知大学名誉教授	植物
伊谷 行	高知大学教授	十脚甲殻類
斉藤 知己	高知大学准教授	両生類、爬虫類
佐藤 重穂	森林研究・整備機構 森林総合研究所 四国支所 産学官民連携推進調整監	鳥類
田邊 由紀	牧野植物園	植物
濱田 哲暁	株式会社東洋電化テクノリサーチ技術部	鳥類
前田 綾子	牧野植物園研究員	植物
町田 吉彦	高知大学名誉教授	魚類
三本 健二	四国貝類談話会会員	貝類
谷地森 秀二	越知町立横倉山自然の森博物館 学芸員	哺乳類

表 1.4.2 高知県外来種リスト検討会による検討状況

開催日	名称	検討等の内容
令和元（2019）年 8 月 20～26 日	第 1 回 ヒアリング	高知県内における外来種の分布状況 外来種 1 次リスト案に対する意見
令和元（2019）年 9 月 19 日	第 1 回 外来種リスト検討会	外来種 1 次リストの確認 高知県で注意すべき外来種リストの選定 及び評価について
令和元（2019）年 11 月 25～12 月 11 日	第 2 回 ヒアリング	高知県で注意すべき外来種リストの選定 及び評価案に対する意見
令和 2（2020）年 1 月 16 日	第 2 回 外来種リスト検討会	高知県で注意すべき外来種リストの選定 及び評価 高知県における外来種対策について

2. 高知県で注意すべき外来種リスト

2.1 防除対策外来種

表 2.1 (1/2) 防除対策外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		
					世界	日本	
鳥類	サンジャク	<i>Urocissa erythrorhyncha</i>					
爬虫類	ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>		緊急	○	○	
両生類	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	特外	重点	○	○	
魚類	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	特外	緊急		○	
	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	特外	緊急	○	○	
昆虫類 ※4	モトジロアザミウマ	<i>Echinothrips americanus</i>					
	ミカンキイロアザミウマ	<i>Frankliniella occidentalis</i>				○	
	クロトンアザミウマ	<i>Heliothrips haemorrhoidalis</i>					
	グリバネアザミウマ	<i>Hercinothrips femoralis</i>					
	アカオビアザミウマ	<i>Selenothrips rubrocinctus</i>					
	ハナアザミウマ	<i>Thrips hawaiiensis</i>					
	ミナミキイロアザミウマ	<i>Thrips palmi</i>				○	
	ネギアザミウマ	<i>Thrips tabaci</i>					
	カキクダアザミウマ	<i>Ponticulothrips diospyrosi</i>					
	イエシロアリ	<i>Coptotermes formosanus</i>				○	○
	イヌホウズキクロアブラムシ	<i>Aphis fabae solanella</i>					
	フウナガマダラオオアブラムシ	<i>Longistigma liquidambarus</i>					
	ムギクビレアブラムシ	<i>Rhopalosiphum padi</i>					
	セイダカアワダチノウヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>					
	ルビーロウムシ	<i>Ceroplastes rubens</i>					
	マデイラコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus madeirensis</i>					
	ナスコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus solani</i>					
	ヤノネカイガラムシ	<i>Unaspis yanonensis</i>					○
	イセリアカイガラムシ	<i>Icerya purchasi</i>					
	ミカントゲコナジラミ	<i>Aleurocanthus spiniferus</i>					
	タバココナジラミ バイオタイプBおよびバイオタイプQ	<i>Bemisia tabaci</i> Biotype B and Q					
	オンシツコナジラミ	<i>Trialeurodes vaporariorum</i>					○
	トビイロウンカ	<i>Nilaparvata lugens</i>					
	セジロウンカ	<i>Sogatella furcifera</i>					
	フタテンヒメコバイ	<i>Arboridia apicalis</i>					
	カンシャコバナネガカメムシ	<i>Cavelerius saccharivorus</i>					○
	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>					
	クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia curvifascia</i>					
	クロメンガタズメ	<i>Acherontia lachesis</i>					
	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida lepida</i>					○
	イッテンオオメイガ	<i>Scirpophaga incertulas</i>					
	イチジクヒトリモドキ	<i>Asota ficus</i>					

表 2.1 (2/2) 防除対策外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3	
					世界	日本
昆虫類	オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera armigera</i>				
	※4 トマトハモグリバエ	<i>Liriomyza sativae</i>				○
	マメハモグリバエ	<i>Liriomyza trifolii</i>				○
	ソラマメゾウムシ	<i>Bruchus rufimanus</i>				
	ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacoptera nepalensis</i>				
	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>				○
	ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>				
	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>				
クモ・サリ	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i>	特外	緊急		○
その他の無脊椎動物	マツノザイセンチュウ	<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>		その他(総)		○
	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>		重点	○	○
植物	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	特外	緊急		○
	アオノリュウゼツラン	<i>Agave Americana</i>		重点		
	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>		重点	○	○
	アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> subsp. <i>setigerum</i>		その他(総)		
	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	特外	緊急		○
	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	特外	緊急		○
	ウチワサボテン属	<i>Opuntia</i> spp.		重点		
	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	特外	緊急		
	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolate</i>	特外	緊急		○
	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	特外	緊急		
	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	特外	緊急		
	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	特外	緊急		
	8 群	60 種		12 種	19 種	6 種

※1 外来生物法区分

特外：外来生物法に基づく特定外来生物（2018年4月1日時点）

※2 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種（2015年3月26日時点）

侵入：侵入予防外来種、重点：重点対策外来種、産業：産業管理外来種、緊急：緊急対策外来種

その他(定)：その他の定着予防外来種、その他(総)：その他の総合対策外来種

※3 侵略的外来種ワースト100

世界：世界の侵略的外来種ワースト100 日本：日本の侵略的外来種ワースト100

※4 農業害虫または衛生害虫

2.2 重点啓発外来種

表 2.2 (1/5) 重点啓発外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3	
					世界	日本
哺乳類	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>		重点	○	
	ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>		重点		
	クマネズミ	<i>Rattus rattus</i>		緊急	○	
	ノヌ(イヌの野生化したもの)	<i>Canis lupus familiaris</i>		重点		
	ノネコ(イエネコの野生化したもの)	<i>Felis silvestris catus</i>		緊急	○	○
	シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>				○
	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>		重点		
鳥類	ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>	特外	その他(総)		
	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	特外	重点		○
爬虫類	ミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>				
魚類	ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>		その他(総)		
	カラドジョウ	<i>Misgurnus dabryanus</i>		その他(総)		
	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	特外	重点	○	○
昆虫類	トコジラミ	<i>Cimex lectularius</i>				
その他の無脊椎動物	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>		その他(総)	○	○
	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>		その他(総)		
	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>		その他(総)		○
	タイワンハシジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>		その他(総)		
	イガイダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>		その他(総)		
	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>		その他(総)		○
	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>		緊急		○
	植物	コンテリクマゴケ	<i>Selaginella uncinata</i>		その他(総)	
外来アゾラ類	<i>Azolla</i> spp.	特外	緊急			
ハゴロモモ	<i>Cabomba caroliniana</i>		重点			
スレソウ属の園芸品種※4	<i>Nymphaea</i> cv.		重点			
ミズヒナゲシ	<i>Hydrocleys nymphoides</i>					
オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>		重点		○	
コカナダモ	<i>Elodea nuttallii</i>		重点		○	
アマゾンチカガミ	<i>Limnobium laevigatum</i>		重点			
ユリズイセン	<i>Alstroemeria pulchella</i>					
シンテツボウユリ	<i>Lilium × formolongo</i>		その他(総)			
ヒメオウギズイセン	<i>Crocasmia × crocosmiiflora</i>		その他(総)			
キシウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		重点		○	
ハタケニラ	<i>Nothoscordum gracile</i>					
アツバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i>		重点			
シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>		その他(総)			
トウシュロ	<i>Trachycarpus wagnerianus</i>		その他(総)			
アレチイボクサ	<i>Murdannia nudiflora</i>					
トキワツユクサ (ノハカタカラクサ)	<i>Tradescantia fluminensis</i>		重点			

表 2.2 (2/5) 重点啓発外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ファースト100※3	
					世界	日本
植物	シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i> subsp. <i>flabelliformis</i>		重点		
	刈ケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>		重点		
	シヨクヨウガヤツリ	<i>Cyperus esculentus</i>				
	刈ケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		その他(総)		
	ハルガヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>		その他(総)		
	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		重点		○
	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		その他(総)		
	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		その他(総)		
	キシウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>distichum</i>		その他(総)		
	チケゴズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>		重点		
	タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>		その他(総)		
	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i> subsp. <i>trivialis</i>				
	ヨシススキ	<i>Saccharum arundinaceum</i>		重点		
	セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum</i>		その他(総)		
	シラコキゲシ	<i>Eomecon chionantha</i>				
	カラコエ属※4	<i>Kalanchoe</i> spp.				
		コダカラ・ミケイ×キンチョウ (品種名:フシチョウ)	<i>Kalanchoe daigremontiana</i> × <i>K. tubiflora</i>			
		キンチョウ	<i>Kalanchoe tubiflora</i>			
		セイロンベンケイ	<i>Kalanchoe pinnata</i>		重点	
	オカタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>				
	メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>				
	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>			重点	○
	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>			その他(総)	
	キダチコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i>				
	ヒラカンサ属※4	<i>Pyracantha</i> spp.				
		タチバナモドキ	<i>Pyracantha angustifolia</i>		その他(総)※5	
		トキワサンザシ	<i>Pyracantha coccinea</i>		その他(総)※5	
	コゴメズ	<i>Pilea microphylla</i>			重点	
	オオバヤシャブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>				
	イモカタハミ	<i>Oxalis articulata</i>				
	ベニカタハミ	<i>Oxalis braziliensis</i>				
	ムラサキカタハミ	<i>Oxalis debilis</i> subsp. <i>corymbosa</i>				
	オオキバナカタハミ	<i>Oxalis pes-caprae</i>			その他(総)	
	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>			その他(総)	
	チュウゴクアカギ	<i>Bischofia javanica</i>				
	ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i>				
ホソシメシハギ	<i>Ammannia coccinea</i>					
ヒレタゴボウ	<i>Ludwigia decurrens</i>					
メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>					
コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>			重点		

表 2.2 (3/5) 重点啓発外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		
					世界	日本	
植物	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>		重点			
	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>				○	
	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>		その他(総)			
	キンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i>					
	アメリカキンゴジカ	<i>Sida spinosa</i>					
	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>		その他(総)		○	
	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>					
	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>		重点			
	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i>					
	ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>		その他(総)			
	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i> subsp. <i>pyrenaicus</i>		その他(総)			
	アレチギンギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>					
	ナガバギンギシ	<i>Rumex crispus</i>		その他(総)			
	エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		その他(総)			
	ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i>		その他(総)			
	シロバナマンテマ	<i>Silene gallica</i> var. <i>gallica</i>		その他(総)			
	ノハラツメクサ	<i>Spergula arvensis</i>					
	ホンソノゲイトウ	<i>Alternanthera denticulata</i>					
	ツルノゲイトウ	<i>Alternanthera sessilis</i>					
	ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>					
	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>					
	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>					
	カルポブプロツス・キレンシス (バクヤギク)	<i>Carpobrotus chilensis</i>		重点			
	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i>		重点			
	フウセントウワタ	<i>Gomphocarpus physocarpus</i>					
	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>		重点			
	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i>		その他(総)			
	外来ノアサガオ類※4	<i>Ipomoea</i> spp.					
		マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>		重点※6		
		アメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i> var. <i>hederacea</i>		重点※6		
		マルバアメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea</i> var. <i>integriuscula</i>		重点※6		
		マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>		重点※6		
		マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>		重点※6		
	イモネノホシアサガオ	<i>Ipomoea trichoarpa</i>		重点※6			
	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>		その他(総)			
	ハリアサガオ	<i>Ipomoea turbinata</i>		重点※6			
	イリオモテアサガオ	<i>Ipomoea</i> sp.		重点※6			

表 2.2 (4/5) 重点啓発外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3	
					世界	日本
植物	外来ホオズキ属※4	<i>Physalis</i> spp.				
	フウリンホオズキ	<i>Physalis acutifolia</i>				
	ヒロハフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i> var. <i>angulata</i>				
	ホノバフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata</i> var. <i>lanceifolia</i>				
	ヒメゼンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>				
	外来イヌホオズキ属※4	<i>Solanum</i> spp.				
	テリミノイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>				
	オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>				
	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptychanthum</i>				
	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i>				
	マツノウラン	<i>Nuttallanthus canadensis</i>				
	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>				
	オオバナイトヌキモ	<i>Utricularia gibba</i>		重点		
	ヤナギバルレイラウ	<i>Ruellia simplex</i>		その他(総)		
	シチヘンゲ	<i>Lantana camara</i> subsp. <i>aculeata</i>		重点	○	
	ヒメイワダレソウ	<i>Phyla canescens</i>		重点		
	ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>		その他(総)		
	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		その他(総)		
	ダキバアレチハナガサ	<i>Verbena</i> × <i>incompta</i>		その他(総)		
	ヒメクマツヅラ	<i>Verbena litoralis</i>		その他(総)		
	カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i>		その他(総)		
	ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>				
	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		重点		○
	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		その他(総)		
	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>				
	コシロノセンダングサ (シロノセンダングサ)	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>				
	オオバナノセンダングサ (タチアワユキセンダングサ)	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>		その他(総)		
	ハジギク	<i>Chrysanthemum japonense</i>				
	イエギク	<i>Chrysanthemum morifolium</i>		その他(総)		
	ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>		その他(総)		
	アメリカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>				
	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		その他(総)		○
	ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>		その他(総)		
	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>				
	ケナシヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>		その他(総)		
	ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>				
	チチコグサモドキ	<i>Gamochaeta pensylvanica</i>				
	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>		その他(総)		
	アラゲハンゴンソウ	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>		その他(総)		
	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		重点		○

表 2.2 (5/5) 重点啓発外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3	
					世界	日本
植物	アリケントキンノウ	<i>Soliva sessilis</i>				
	ホウキギク	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>subulatum</i>				
	ヒロハホウキギク	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>				
	外来性タンポポ種群※4	<i>Taraxacum</i> spp.				
	アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>		重点※7		○
	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		重点※7		○
	オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		その他(総)		○
	ウチワゼニクサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>		重点		
7 群	158 種		4 種	100 種	6 種	21 種

※1 外来生物法区分

特外：外来生物法に基づく特定外来生物（2018年4月1日時点）

※2 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種（2015年3月26日時点）

侵入：侵入予防外来種、重点：重点対策外来種、産業：産業管理外来種、緊急：緊急対策外来種

その他(定)：その他の定着予防外来種、その他(総)：その他の総合対策外来種

※3 侵略的外来種ワースト100

世界：世界の侵略的外来種ワースト100 日本：日本の侵略的外来種ワースト100

※4 同属の外来種が該当する。

※5 生態系被害防止外来種リストでは「ピラカンサ類」がその他の総合対策外来種となっておりそれに準拠した。

※6 生態系被害防止外来種リストでは「外来ノアサガオ類」が重点対策外来種となっておりそれに準拠した。

※7 生態系被害防止外来種リストでは「外来性タンポポ類」が重点対策外来種となっておりそれに準拠した。

2.3 産業管理外来種

表 2.3 産業管理外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3	
					世界	日本
魚類	イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i>				
	ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>		産業	○	○
植物	コスカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>		産業		
	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>		産業		○
	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>		産業		
	ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>		産業		
	アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i>		産業		
	オオアワガエリ	<i>Phleum pratense</i>		産業		
	オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>		産業		○
	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>		産業		
	モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i>		産業		
	ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonis</i>		産業		
	マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i>		産業		
	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>		産業		○
	ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> subsp. <i>varia</i>		産業		
	オニマタタビ (キウイ)	<i>Actinidia chinensis</i>		産業		
	2 群	16 種		0 種	15 種	1 種

※1 外来生物法区分

特外：外来生物法に基づく特定外来生物（2018年4月1日時点）

※2 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種（2015年3月26日時点）

侵入：侵入予防外来種、重点：重点対策外来種、産業：産業管理外来種、緊急：緊急対策外来種

その他(定)：その他の定着予防外来種、その他(総)：その他の総合対策外来種

※3 侵略的外来種ワースト100

世界：世界の侵略的外来種ワースト100 日本：日本の侵略的外来種ワースト100

◆利用上の留意事項

産業管理外来種については、利用の回避・抑制、侵略性のない代替種の開発・普及又はリスクを低減若しくは抑制するための管理の実施・普及が重要です。表 2.3 に示すイワナを除く種は、生態系被害防止外来種リストに掲載されている産業管理外来種であり、これらの利用上の留意事項の詳細については、環境省ホームページで公開されている掲載種の付加情報を参照してください。表 2.3 に示す種の利用上の留意事項の概要を表 2.4 に整理しました。

環境省ホームページ 生態系被害防止外来種リスト 掲載種の付加情報

<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

表 2.4 産業管理外来種の利用上の留意事項の概要※

該当種	用途	留意事項
イワナ ニジマス	釣り 食用	本県の河川の上流域等で定着しており、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の放流等をしないよう注意が必要。
コヌカグサ カモガヤ ネズミムギ ホソムギ アメリカスズメノヒエ オオアワガエリ オニウシノケグサ	飼料 緑化	国立公園や草原に特有な希少種等が生育する自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要。 牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防ぐために、結実前に刈り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。 法面緑化に利用する場合には、樹木の植栽・導入と併用することで植生遷移を促し、外来種の衰退を早めることができる。
ナギナタガヤ	果樹園等における雑草 防除	温帯域の畑地、牧草地の雑草となっている。 本県ではこれまでそれほど大きな問題にはなっていないが、大量に種子が撒かれることにより、周辺への影響が心配される。
モウソウチク ハチク マダケ	食用 材料	既にある竹林については、放棄することなく適切に利用、管理することが望ましい。 適切な管理が持続できない場所へは、新たに持ち込まないようにする。
ハリエンジュ (ニセアカシア)	蜜源植物、 庭木、街路 樹、砂防林、 肥料木、薪 炭材等	種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれに配慮するほか、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域では利用を避けることが望ましい。
ナヨクサフジ	飼料 緑肥	ヘアリーベッチの名で、飼料や緑肥として栽培されている。 河川に侵入して種子が拡散される場所へは、持ち込まない。
オニマタタビ (キウイ)	果物	耕作放棄地等からつるが伸びだして周囲の植生を圧迫する可能性がある。種子をつけ始めると急速に分布拡大の危険性があり、鳥により種子が散布でされること等から、雑木林への影響が危惧されている。 こうした環境へ侵入するおそれのある場所で栽培を中止する場合には、つるが周囲に伸びたり、種子が運ばれることのないよう、完全に除去するなどの適切な処置が望まれる。 なお、本種は雌雄異株なので、結実には両性の株が必要。

※環境省ホームページ 生態系被害防止外来種リスト 掲載種の付加情報より抜粋
<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

2.4 定着予防外来種

表 2.5 定着予防外来種一覧

分類群	和名	学名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト 100※3	
					世界	日本
哺乳類	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	特外	緊急	○	○
	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	特外	緊急		○
鳥類	コリンズズラ	<i>Colinus virginianus</i>		その他(総)		
	コウライキジ(大陸産亜種)	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>		その他(総)		○
	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	特外	重点		○
昆虫類	ヒワキシジミ※4	<i>Cacopsylla biwa</i>				
	ミカンキシジミ※4	<i>Diaphorina citri</i>				
	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>				
	ツマジロクサヨトウ※4	<i>Spodoptera frugiperda</i>				
	クビアカツヤカミキリ	<i>Aromia bungii</i>	特外	その他(総)		
	アリモドキゾウムシ※4	<i>Cylas formicarius</i>				○
	アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>	特外	緊急	○	○
	アカカミアリ	<i>Solenopsis geminata</i>	特外	緊急		
	ヒアリ(アカヒアリ)	<i>Solenopsis invicta</i>	特外	侵入		
ツマアカスズメバチ	<i>Vespa velutina</i>		緊急			
クモ・サソリ類	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	特外	緊急		
	クロゴケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>	特外	緊急		
植物	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	特外	緊急		
	ツルヒヨドリ	<i>Mikania micrantha</i>	特外	緊急		
	アメリカハマグルマ	<i>Sphagneticola trilobata</i>		緊急	○	
	ブラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	特外	緊急		
5 群	21 種		12 種	16 種	3 種	6 種

※1 外来生物法区分

特外：外来生物法に基づく特定外来生物（2018年4月1日時点）

※2 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種（2015年3月26日時点）

侵入：侵入予防外来種、重点：重点対策外来種、産業：産業管理外来種、緊急：緊急対策外来種

その他(定)：その他の定着予防外来種、その他(総)：その他の総合対策外来種

※3 侵略的外来種ワースト 100

世界：世界の侵略的外来種ワースト 100 日本：日本の侵略的外来種ワースト 100

※4 農業害虫

3. 外来種への対策

3.1 外来種対策の基本的な考え方

3.1.1 高知県における外来種対策の基本的な考え方

国（環境省・農林水産省・国土交通省）が定めた外来種被害防止行動計画（平成 27 年 3 月 26 日）の考え方（表 3.1.1）に準じて、地方自治体の役割として、本リストの作成による防除対象の明確化や地域の生物多様性保全などの観点からの外来種対策の実施など、本県における外来種対策の推進を図ります。

表 3.1.1 社会において外来種対策を主流化するための基本的な考え方
（外来種被害防止行動計画の概要より抜粋）

4つの観点	基本的考え方
全体の基盤となる対策	<ul style="list-style-type: none"> ●普及啓発・教育の推進と人材の育成 ●優先度を踏まえた外来種対策の推進 ●情報基盤の構築及び調査研究の推進
導入・逸出の防止	<ul style="list-style-type: none"> ●侵略的外来種の導入の防止 <ul style="list-style-type: none"> ・意図的に導入される外来種の適正管理 ・非意図的な導入に対する予防
防除の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的・効率的な防除の推進
地域固有性の維持保全	<ul style="list-style-type: none"> ●国内由来の外来種への対応 ●同種の生物導入による遺伝的攪乱への対応

3.1.2 指針と目標

1) 普及活動

- ・外来生物予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」の実践に向けた普及啓発
- ・農林水産業、緑化事業者などへの情報提供
- ・防除活動などのメディアを通じた情報発信
- ・動物愛護管理法に基づく愛玩動物（ペット）の遺棄防止や終生飼育の推進
- ・園芸植物の導入や希少植物の保全を目的とした栽培における留意事項、それらによる遺伝的攪乱の危険性など、地域固有性の保全に向けた普及啓発

2) 優先度（カテゴリ）を踏まえた効果的効率的な防除の推進

- ・優先度の高い種や地域における防除活動の実施
- ・他地域における先行防除事例の試験実施による高知県での最適化の検討

3) 侵略的外来種の導入、侵入の防止

- ・アライグマなどの高知県で確認されていない定着予防外来種の動向の把握
- ・本リストおよび生態系被害防止外来種リストを活用した、外来種の適正使用、管理、および代替種利用などの促進

4) 情報収集ならびに調査の体制づくり

- ・ 関係機関や研究者との連携による情報の収集体制の構築
- ・ 定期的な調査（モニタリング）の実施（絶滅危惧種に係る調査との連携）

3.2 外来種対策

3.2.1 目標の設定による効果的な防除

外来種対策の基本は外来生物予防三原則「入れない、捨てない、拡げない」です。侵略的外来種は、増殖あるいは定着した範囲が拡大するにつれて対策が困難になるとともに、対策に係る費用や労力が大きくなります。そのため、対象とする外来種の定着段階や防除の実行可能性や実効性などから効果的な対策目標を設定し、計画的に防除を進めます。

1) 侵入・定着予防

費用対効果が高く、最も効果的な外来種対策は、外来種の侵入・定着を予防することです。そのため、導入の予防、水際での監視、侵入初期における早期の防除を実施します。また、飼育・栽培個体の野外への遺棄・逸出を防止するための普及啓発を進めます。

2) 根絶・低密度化

定着初期や分布が限定的な外来種に対しては、根絶あるいは低密度化を目標として駆除等を実施します。特に侵略的外来種の定着が確認された場合には速やかに対応します。すでに広域に蔓延している場合においても、国立・国定公園や県立自然公園、希少種の生息・生育地などの重要な地域、ため池などでは、必要に応じて集中的に根絶を図ります。

3) 分布拡大防止

分布域が拡大している種は、その影響や被害の拡大を防ぐために分布域を一定の範囲に封じ込めることを目標として防除を実施します。また、分布拡大の要因が人為の場合は、防止に向けた普及啓発を進めます。

3.2.2 対策事例

本県においても特定外来生物に指定されている種を対象とした駆除活動が行われています。

植物では、牧野植物園が中心となり市民ボランティアや地元自治体と連携して特定外来生物の駆除活動が進められています。2017～2019年にかけて、オオハンゴンソウ、ナルトサワギク、ミズヒマワリ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクの6種を対象にした駆除活動が計14回行われました。

動物では、特定外来生物のセアカゴケグモ



植物の特定外来生物であるオオハンゴンソウの駆除活動の様子
(2018年7月21日)

が、平成 23（2011）年以降、高知市や香南市、安芸市などで発見されており、毎年数件の発見情報が県に寄せられ、発見箇所の現地確認と殺虫剤による駆除を実施しています。このほか、同じく特定外来生物のソウシチョウ（鳥類）を対象に、卵およびヒナを直接巣から除去する方法による防除も行われています。

特定外来生物のように生態系などへの被害が深刻な外来種については、本県のほか全国各地で駆除などの対策が行われており、環境省、国立環境研究所、各都道府県のホームページなどで外来種に関する情報とともに具体的な駆除方法なども整理、公開されています（表 3.2.1、巻末資料 2）。これらの先行事例を参考に対策を進めながら、高知県に最適な方法についても検討します。

表 3.2.1 外来種対策に関する情報源の例

情報源	概要
◆環境省ホームページ 日本外来種対策 https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html	外来生物法、特定外来生物、外来種問題、外来種の防除、これらに関する資料（手引き・マニュアル）等が閲覧できる。
◆国立環境研究所ホームページ 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/	外来種の生態的な基本情報、侵入情報、防除方法などが整理されており、検索、閲覧できる。
◆「最新日本の外来生物」（書籍） 自然環境研究センター編著 平凡社刊	特定外来生物（2019年9月1日時点）、生態系被害防止外来種リスト掲載種について、生態的な基本情報、影響、対策が記載されている。

参考文献

【共通】

（文献）

福岡県保健環境研究所環境科学部環境生物課. 2018. 福岡県侵略的外来種リスト 2018. 福岡県環境部自然環境課, 福岡, 135pp.

外来種影響・対策研究会. 2008. 河川における外来種対策の考え方とその事例【改訂版】— 主な侵略的外来種の影響と対策—. リバーフロント整備センター, 東京, 313pp.

環境省. 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (2015年3月).

環境省. 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト) 概要 (2015年3月).

環境省. 2015. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 補足資料 (2015年3月).

環境省・農林水産省・国土交通省. 2015. 外来種被害防止行動計画～生物多様性条約・愛知目標の達成に向けて～ (平成27年3月26日).

自然環境研究センター. 2019. 最新日本の外来生物. 平凡社, 東京, 591pp.

日本生態学会編. 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京, 390pp.

和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室. 2019. 和歌山県の外来種リスト. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山, 89pp.

（ホームページほか）

環境省ホームページ 日本の外来種対策

<https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html> (参照 2020.03.09)

国立環境研究所ホームページ 侵入生物データベース

<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/> (参照 2020.03.09)

【哺乳類】

（文献）

川田伸一郎・岩佐真宏・福井大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽創・姉崎智子・横畑泰志. 2018. 世界哺乳類標準和名目録. 哺乳類科学, 58, 1-53.

高知県文化環境部自然共生課・特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター. 2007. 平成18年度 外来種生息分布調査 (陸上脊椎動物) 委託業務報告書.

高知県警察本部 (2019-07-26). 過去5年分の拾得物として取扱いのある動物 (外来種).

高知県鳥獣対策課. 2009-2019. 鳥獣生息状況調査業務報告書. 高知県.

国土交通省. 2014. 平成25年度東洋北川・奈半利安田道路環境調査業務報告書 (2014年3月).

国土交通省. 2016. 平成27年度高知南国道路環境調査業務報告書 (2016年3月).

国土交通省. 2017. 平成27-28年度阿南安芸自動車道環境調査業務報告書 (2017年3月).

国土交通省. 2018. 平成29年度南国安芸道路環境調査業務報告書 (2018年3月).

（ホームページほか）

環境省自然環境局 生物多様性センター いきものログ Ikilog.

<https://ikilog.biodic.go.jp/>, (参照 2019-07-12)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (2001-2013 に実施された河川水辺の国勢調査確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

【鳥類】

(文献)

高知県文化環境部自然共生課・特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター. 2007. 平成 18 年度 外来種生息分布調査 (陸上脊椎動物) 委託業務報告書

高知県鳥獣対策課. 2009-2019. 鳥獣生息状況調査業務報告書

高知新聞社編. 1978. 土佐の博物誌・高知新聞創刊 75 周年記念出版, 高知新聞社, p.145.

国土交通省. 2014. 平成 25 年度東洋北川・奈半利安田道路環境調査業務報告書 (2014 年 3 月).

国土交通省. 2016. 平成 27 年度高知南国道路環境調査業務報告書 (2016 年 3 月).

国土交通省. 2017. 平成 27-28 年度阿南安芸自動車道環境調査業務報告書 (2017 年 3 月).

国土交通省. 2018. 平成 29 年度南国安芸道路環境調査業務報告書 (2018 年 3 月).

日本鳥学会目録編集委員会. 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会. 東京.

佐藤重穂・濱田哲暁・谷岡 仁. 2018. 四国西部におけるサンジャクの野生化. *Bird Research* 14: S1-S5.

(ホームページほか)

環境省自然環境局 生物多様性センター いきものログ Ikilog.

<https://ikilog.biodic.go.jp/>, (参照 2019-07-12)

環境省ホームページ 日本の外来種対策 防除の確認・認定

<https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/kakunin.html> (2020.03.09)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (2003-2015 に実施された河川水辺の国勢調査確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

大阪市立自然史博物館. 外来生物調査プロジェクト. 日本のハッカチョウ分布調査, <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/Aliens/Hakka.html/> (参照 2019.08.23)

【爬虫類】

(文献)

福井里美. 2019. カンタロウ?実は南方のヘビ 高知市の高 1 県内初発見. 高知新聞, 2019 年 5 月 25 日.

高知県文化環境部自然共生課・特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター. 2007. 平成 18 年度 外来種生息分布調査 (陸上脊椎動物) 委託業務報告書. 高知県.

高知県警察本部 (2019-07-26). 過去 5 年分の拾得物として取扱いのある動物 (外来種).

国土交通省. 2014. 平成 25 年度東洋北川・奈半利安田道路環境調査業務報告書 (2014 年 3 月).

国土交通省. 2016. 平成 27 年度高知南国道路環境調査業務報告書 (2016 年 3 月).

国土交通省. 2017. 平成 27-28 年度阿南安芸自動車道環境調査業務報告書 (2017 年 3 月).

国土交通省. 2018. 平成 29 年度南国安芸道路環境調査業務報告書 (2018 年 3 月).

谷岡仁. 2019. 高知県で発見されたミナミヤモリ (ヤモリ下目: ヤモリ科). 四国自然史科学研究, (12), 28-34.

(ホームページほか)

環境省自然環境局 生物多様性センター. いきものログ. Ikilog.

<https://ikilog.biodic.go.jp/>, (参照 2019-08-30)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (2001-2012 に実施された河川水辺の国勢調査確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

【両生類】

(文献)

環境庁. 1982. 日本の重要な両生類・は虫類の分布 (全国版). 第2回自然環境保全基礎調査 (緑の国勢調査) -動物分布調査 (両生類・は虫類) 報告書.

高知県文化環境部自然共生課・特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター. 2007. 平成18年度 外来種生息分布調査 (陸上脊椎動物) 委託業務報告書. 高知県.

高知県レッドデータブック (動物編) 改訂委員会. 2018. 高知県レッドデータブック 2018 動物編. 高知県林業振興・環境部, 高知, 279pp.

国土交通省. 2014. 平成25年度東洋北川・奈半利安田道路環境調査業務報告書(2014年3月).

国土交通省. 2016. 平成27年度高知南国道路環境調査業務報告書 (2016年3月).

国土交通省. 2018. 平成29年度南国安芸道路環境調査業務報告書 (2018年3月).

渡部孝・中西安男・清家晴男・山崎博継・吉澤未来・久川智恵美・吉川貴臣・三宅由起・岡本宏昭・大地博史・武田早絵・早川大輔・山崎由希. 2013. 高知県におけるオオサンショウウオの分布生息調査Ⅱ (平成19年4月1日～平成24年3月31日) わんぱくこうちアニマルランド研究記録集Ⅱ (開園20周年記念号), 67-78.

渡部孝・中西安男・清家晴男・山崎博継・吉澤未来・久川智恵美・吉川貴臣・三宅由起・大地博史・武田早絵. 2013. 高知県におけるオオサンショウウオの分布生息調査Ⅰ (平成14年9月1日～平成18年12月31日). わんぱくこうちアニマルランド研究記録集Ⅱ (開園20周年記念号), 22-26.

(ホームページほか)

環境省自然環境局 生物多様性センター. いきものログ. Ikilog.

<https://ikilog.biodic.go.jp/>, (参照 2019-07-12)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (2001-2013 に実施された河川水辺の国勢調査確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

【魚類】

(文献)

広瀬吉則・大久保新也・佐藤英毅. 1977. 西日本におけるカダヤシ *Gambusia affinis* の移植による分布の拡大. 衛生動物, 28(3), 337-338.

細谷和海. 2015. 山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京, 527.

伊藤猛夫. 1985. 仁淀川 -その自然と魚たち- 開発の中に生きるようす. 仁淀川水系

- 河川生態研究会・仁淀川漁業協同組合, 260pp.
- 蒲原稔治. 1962. 高知県の淡水魚類について. 高知大学術研報, 10, 7-18.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい. 東京.
- 高知県レッドデータブック〔動物編〕編集委員会. 2002. 高知県の絶滅のおそれのある野生動物-. 高知県文化環境部環境保全課, 高知, 470pp.
- 高知県水産振興部漁業振興課. 2012. 高知県内水面漁場管理保全計画.
- 高知市・高知大学. 2009. 高知市総合調査, 第1編「地域の自然」第17章鏡川淡水域の魚類相.
- 高知市・高知大学. 2009b. 高知市総合調査, 第1編「地域の自然」第18章浦戸湾とその流入河川河口域の魚類.
- 高知市・高知大学. 2009c. 高知市総合調査, 第1編「地域の自然」第19章高知市新川川の魚類相.
- 国土交通省. 2015. 平成26年度物部川・仁淀川魚類外調査業務報告書
- 国土交通省. 2018. 平成29年度 南国安芸道路環境調査業務
- 国土交通省水管理・国土保全局 水情報国土データ管理センター. 2019. 河川水辺の国勢調査生物リスト (平成30年度版).
- 馬淵浩司. 2017. DNAが語る日本のコイの物語. 国立環境研究所ニュース, 36(5):6-8.
- 馬淵浩司. 2017. 日本の自然水域のコイ: 在来コイの現状と導入コイの脅威. 魚類学雑誌, 64(2):213-218.
- 町田吉彦. 2018. ドジョウ. 高知県レッドデータブック(動物編)改訂事業 改訂委員会, p.97. 高知県レッドデータブック2018動物編. 高知県.
- 落合明・寺岡澄・半沢直人. 1980. 高知県における淡水魚の生息と分布の概況. 高知大学術研報, 28, 145-156.
- 岡村収・為家節弥・青木博幸. 1976. 鏡川水系の魚類. 岡村収(編), pp.81-128. 鏡川の生物と環境に関する総合調査-特に塚の原地区水の放出に伴う影響について1975年度委託調査-. 高知県, 高知.
- Okamura and Machida. 1986. Additional Records of Fishes from Kochi Prefecture, Japan. The memoirs of the Faculty of Science of the Kochi University, Series D. (Biology), 7.
- 岡村収・碓井利明・宮原一・山下慎吾・和田浩史郎. 1992. 鏡川水系の魚類および甲殻類. 高知大学理学部海洋生物学講座(編), pp. 99-146+ix(4 plus.). 鏡川水系の生物と環境に関する総合調査II-1989・1990年度調査-. 高知県土木部河川課, 高知.
- 大塚高雄・野村彩恵・杉村光俊. 2010. 四万十川の魚図鑑. いかだ社. 163 pp.
- 佐藤成史(1998)瀬戸際の溪魚たち. つり人社. 東京. 284pp.
- 四国自然史科学研究センター. 2015. すさき生き物マップ(動物編). 須崎市企画課.
- 多部田修・高井徹・松井魁. 1977. わが国における外来ウナギについて. 水産増殖, 24(4), 116-122.
- 高橋弘明. 2018. スナヤツメ(南方種). 高知県レッドデータブック(動物編)改訂事業 改訂委員会, p. 94. 高知県レッドデータブック2018動物編. 高知県.

(ホームページほか)

環境省自然環境局 生物多様性センター. いきものログ. Ikilog.

<https://ikilog.biodic.go.jp/> (参照 2019-08-23)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (1995-2016 に実施された河川水辺の国勢調査確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

田中宏明. 2012. 高知県馬路村の山間溪流へのオオクチバスの進出. 外来魚研究.

biwako.eco.coocan.jp/study/study.html, (参照 2019.08.23)

WEB魚図鑑 ニゴイ (物部川)、オイカワ (高知県)、ハス (長沢ダム)、ギギ (物部川)、タイリクスズキ (浦戸湾、松田川)、ブルーギル (鏡川、高知県野池)、オオクチバス (物部川、長沢ダム). <https://zukan.com/fish/> (参照 2020.03.09)

お山へ行こう! のブログ またまた高知の話題、沈下橋とイワナ (高岡郡津野町).

lcymeeke.blog90.fc2.com/blog-entry-548.html?sp (参照 2020.03.09)

保の釣りダイアリー 四国地方溪流釣り その3: 高知県 イワナ (吉野川、四万十川).

https://tamotsu-diary.at.webry.info/200612/article_19.html (参照 2020.03.09)

中筋川・バス釣り備忘録 | in the 地獄 オオクチバス (中筋川).

<https://in-the-zigoku.amebaownd.com/posts/1847477> (参照 2020.03.09)

カンパリ All JAPAN 釣果投稿型釣り情報サイトブルーギル (物部川杉田ダム).

<https://fishing.ne.jp/freshpost/1960834> (参照 2020.03.09)

デイリーポータル Z: 四万十川のブルーギルならうまいのか ブルーギル (四万十川).

<https://backnumber.dailyportalz.jp/2006/12/26/c/> (参照 2020.03.09)

FishingLabo ブルーギル (高知市).

<https://www.fishing-labo.net/modules/fishigreports/detail/?detail=MTUzNDY4> (参照 2020.03.09)

水辺遍路 オオクチバス (高知市住吉川).

http://bunbun.hatenablog.com/entry/kochi_sumiyoshi (参照 2020.03.09)

アツオ 土佐のバス釣り! オオクチバス (須崎市糺池).

<https://ameblo.jp/atbp1980/entry-11890405653.html> (参照 2020.03.09)

朝日新聞デジタル 2017年8月25日付 「アリゲーターガー釣れたが一高知、水族館引き取る」

高知新聞 2017年9月16日付 子ども版生き物だいすき欄に掲載

高知新聞 2018年3月28日付 「早明浦ダムにワカサギ 試し釣り大漁300匹 冬の観光資源に」

高知新聞 2018年5月14日付 「タウナギ」高知県内初確認か 東南アジア原産、日高村の池に」

高知新聞 2018年8月21日付 「高知城のお堀干上がる!? TV番組収録で水ぜんぶ抜く」

高知新聞 2018年11月17日付 「団地の池でグッピー大繁殖、市民が網持って押しかける」

テレビ東京「緊急 SOS! 池の水をぜんぶ抜く」2018年9月2日放送. 高知城のお堀においてタイリクバラタナゴ、ハクレン、オイカワ、ソウギョを捕獲.

【昆虫類】

(文献)

- 秋沢稔浩・中山紘一. 2015. 高知市市街地(旧高知市)におけるクロセセリの記録. げんせい (91) : 18.
- 荒川良. 2003. 高知県におけるブタクサハムシの記録. げんせい (78) : 6.
- 荒川良. 2008. 高知市で発生したキョウチクトウスズメ. げんせい (84) : 40.
- 荒川良. 2010. 室戸岬におけるアカギカメムシ. げんせい (86) : 41.
- 別府隆盛. 2001. クロメンガタスズメの採集例と高知県初記録の蛾数種について. げんせい (76) : 19.
- 井上寛・杉繁郎・黒子浩・森内茂・川辺湛・大和田守. 1982. 日本産蛾類大図鑑 第1巻 : 解説編. 講談社, 東京, 966pp.
- 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊. 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 東海大学出版会, 東京, 140pp.
- 川島保夫. 2017. 四国产の蛾類 (1) ~ (4). げんせい (93) : 3-32.
- 国土交通省. 2014. 平成 25 年度東洋北川・奈半利安田道路環境調査業務報告書 (2014 年 3 月).
- 国土交通省. 2016. 平成 27 年度高知南国道路環境調査業務報告書 (2016 年 3 月).
- 国土交通省. 2017. 平成 27-28 年度阿南安芸自動車道環境調査業務報告書 (2017 年 3 月).
- 国土交通省. 2018. 平成 29 年度南国安芸道路環境調査業務報告書 (2018 年 3 月).
- 国土交通省水管理・国土保全局 水情報国土データ管理センター. 2019. 河川水辺の国勢調査生物リスト (平成 30 年度版).
- 熊沢秀雄. 1999. 1997 年高知市周辺におけるアオマツムシの分布. げんせい (73) : 3-7.
- 熊沢秀雄. 2000. アメリカジガバチとキゴシジガバチが狩るクモについて. げんせい (75) : 3-6
- 前園剛・荒川良. 2010. 高知県におけるクロマダラソテツシジミの発生. げんせい (86) : 31-32.
- 前園剛・糸川義雅・荒川良. 2011. 2010 年の高知県におけるクロマダラソテツシジミの発生状況. げんせい (87) : 41-43.
- 榎原寛・佐藤重穂. 2008. 高知県旧池川町で採取された甲虫. げんせい (84) : 25-34.
- 真鍋泰彦. 2012. クロマダラソテツシジミを室戸で採集. げんせい (88) : 21.
- 宮田隆輔・宮田俊江・景山寛司. 2019. 甫喜ヶ峰森林公園の甲虫相. げんせい (95) : 3-12.
- 森沢正. 2010. 高知市におけるクロマダラソテツシジミの採集記. げんせい (86) : 42.
- 中山紘一. 2000. 龍河洞周辺の昆虫. げんせい (75) : 14-39.
- 中山紘一. 2005. アオマツムシ県西部の記録. げんせい (80) : 20. 「佐川町・吾川村・窪川町・土佐清水市」
- 中山紘一. 2015. ヨツモンカメノコハムシ. げんせい (91) : 1
- 越智あずさ・吉富博之. 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. さやばねニューシリーズ (21) : 53-56.
- 大月町 : 佐伯英人. 2002. 高知県幡多郡大月町立姫ノ井小学校付近の国道沿いに生息するバ

ツタ目. げんせい (77) : 28.

島崎祐樹・荒川良. 2016. 2015年に高知県室戸市でクロマダラソテツシジミの発生を確認.

げんせい (92) : 31.

高井幹夫・川上友三・中山紘一・別府隆守・熊沢秀雄. 1999. 足摺岬におけるアカギカメム

シの大量発生. げんせい (74) : 52.

寺山守. 2009. アリハンドブック. 文一総合出版, 東京, 80pp.

友国雅章. 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 全国農村教育協会, 東京, 380pp.

海野和男・青山潤三. 1981. 日本のチョウ. 小学館, 東京, 190pp.

山下泉. 2005. 四国で採集されたアブラムシ類 I. げんせい (80) : 5-13.

山下泉. 2006. 四国で採集されたアブラムシ類 II. げんせい (82) : 3-7.

山下泉. 2008. 高知県におけるプラタナスグンバイの初発生. げんせい (84) : 20.

山下泉. 2014. 高知県内で採集されたアザミウマ類. げんせい (90) : 27-30.

(ホームページほか)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (1994-2015に実施された河川水辺の国勢調査
確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会ホームページ. 読み物コーナー ゴキブリ列
伝. <https://www.jataff.jp/konchu/gokiburi/0603.htm> (参照 2020.03.16)

日本産アリ類画像データベース. <http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/index.html> (参照
2020.03.16)

全国農村教育協会ホームページ 病虫害・雑草の情報基地 インターネット版 日本農
業害虫大事典 害虫最新情報.

<https://www.boujo.net/release/%E3%83%A8%E3%83%84%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%AB%E3%83%A1%E3%83%8E%E3%82%B3%E3%83%8F%E3%83%A0%E3%82%B7.html> (参照 2020.03.16)

【クモ・サソリ類】

(文献)

青木淳一. 1999. 日本産土壌動物 分類のための図解検索. 東海大学出版会, 東京.

(ホームページほか)

高知県庁ホームページ「セアカゴケグモの新たな発見情報について」(2018年7月)

https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/files/2016021500335/file_2018727511419_1.pdf (参照 2020.03.09)

【その他の無脊椎動物 (昆虫・クモ・サソリ類以外)】

(文献)

荒川好満. 1971. 1969年広島湾に異常発生した管棲多毛類の1種カサネカンザシによる養
殖カキの被害について. 貝類学雑誌, 30(2), 75-82.

江崎功二郎・山崎三郎. 1995. 高知県におけるヒゲナガモモトカミキリ *Acanthocinus*
griseus (FABRICIUS)(Coleoptera: Cerambycidae) の羽化脱出消長と触角長. 日本林學會
誌, 77(1), 86-88.

- 細木光夫・町田吉彦. 2004. 高知県浦戸湾で得られたワタリガニ科のカニ類. 四国自然史科学研究, (1): 9-17.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西榮二郎・山西 良平・林 育夫・大越 健嗣・小菅 丈治・鈴木 孝男・逸見 泰久・風呂田 利夫・向井 宏. 2004. 日本における海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, 59, 22-44.
- 梶原 武. 1984. 高知県古満目湾のミドリイガイについて. 付着生物研究, 5 (1), 55.
- 高知県高知土木事務所. 2019. 単街(地特)第5-6号都市計画道路はりまや町一宮線県単街路整備河川水辺環境調査委託業務.
- 高知県レッドデータブック[動物編]編集委員会. 2002. 高知県の絶滅のおそれのある野生動物-高知県文化環境部環境保全課, 高知市, 470pp.
- 高知新聞 2018年12月6日「高知県黒潮町の入野松原、松くい虫被害深刻 伐採例年の4.5倍へ」
- 高知市・高知大学. 2009. 高知市総合調査, 第1編「地域の自然」第20章浦戸湾の刺し網で得られたカニ類. 536-537.
- 国土交通省. 2016. 平成27年度高知南国道路環境調査業務報告書(2016年3月).
- 国土交通省. 2017. 平成27-28年度阿南安芸自動車道環境調査業務報告書(2017年3月).
- 国土交通省. 2018. 平成29年度南国安芸道路環境調査業務報告書(2018年3月).
- 国土交通省水管理・国土保全局 水情報国土データ管理センター. 2019. 河川水辺の国勢調査生物リスト(平成30年度版).
- 町田吉彦. 2004a. アメフラシ科 ゾウアメフラシ. 浦戸湾の自然誌, 6, 1-2.
- 町田吉彦. 2004b. イガイ科 コウロエンカワヒバリガイ. 浦戸湾の自然誌, 8, 1-2.
- 町田吉彦. 2004c. イガイ科 ムラサキイガイ. 浦戸湾の自然誌, 12, 1-2.
- 町田吉彦. 2005a. ワタリガニ科 モンツキイシガニ. 浦戸湾の自然誌, 40, 1-2.
- 町田吉彦. 2005b. フジツボ科 アメリカフジツボ. 浦戸湾の自然誌, 48, 1-2.
- 大谷道夫. 2002. 日本における移入付着動物の出現状況, 最近の動向. *Sessile organisms*, 19(2), 69-92.
- 篠川貴司. 1995. 高知県で発見されたアメリカカブトエビ *Triops longicaudatus*, および田面水の溢水が本種の発生に及ぼす影響について. 日本応用動物昆虫学会誌, 39(2), 168-170.
- 竹内寛興・半田孝俊・大黒正・岡村政則. 1989. 四国地区におけるマツノザイセンチュウ抵抗性個体の選定. 林育研報, 7, 119-143.
- 山田ちはる・伊谷行・上田拓史. 2010. 高知県浦ノ内湾におけるミドリイガイの生息場所利用と水平分布. *Sessile organisms*, 27(1), 41-50.
- 山下泉. 1993. 高知県におけるスクミリンゴガイの越冬状況とその防除対策. 四国植防, 28, 71-77.
- 矢野重文・増田修. 1999. 西日本におけるウスイロオカチグサガイの記録. ちりぼたん, 30(1), 9-12.
- (ホームページほか)
- 環境省自然環境局 生物多様性センター. いきものログ. *Ikilog*.

<https://ikilog.biodic.go.jp/>, (参照 2019-08-23)

国土交通省河川水辺の国勢調査ホームページ (1995-2016 に実施された河川水辺の国勢調査確認種一覧). <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/index.html#> (参照 2020.03.09)

【植物】

(文献)

いがりまさし. 2007. 山溪ハンディ図鑑 11 日本の野菊. 山と溪谷社, 東京, 279pp.

神奈川県植物誌調査会編. 2018. 神奈川県植物誌 2018 (上) (下). 神奈川県植物誌調査会, 神奈川, 1720pp.

木下覺. 2019. 徳島県の帰化植物. 木下覺 (自費出版), 徳島県, 182pp.

高知県. 2019. 平成 30 年度外来種 (植物) 生育分布調査委託業務報告書 (高知県、平成 31 年 3 月).

高知県・高知県牧野記念財団. 2009. 高知県植物誌. 高知県, 高知, 844pp.

久米修. 2017. 香川県産植物目録・補遺 3. 一外来植物一. 香川生物, 44, 1-48.

大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司. 2017. 改訂新版日本の野生植物 5 ヒルガオ科～スイカズラ科. 平凡社, 東京, 474pp.

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七. 2000. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京, 554pp.

高橋秀男・勝山輝男監修. 2000. 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花離弁花①. 山と溪谷社, 東京, 719pp.

田邊由紀・坂本彰・栗原妙子・鴻上泰・藤川和美. 2019. 高知県の外来植物 2019. 高知県立牧野植物園, 高知, 54pp.

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹. 2010. 日本帰化植物写真図鑑第 2 巻. 全国農村教育協会, 東京, 579pp.

巻末資料 1 高知県で確認されている外来種リスト
(1次リスト)

■爬虫類

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リスト※5	評価項目※6														由来	侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考							
							世界	日本		定着段階※7				定着可能性		生態系被害		分布拡大		社会被害		逸出拡散								対策の実効性・可能性						
										分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域	人体								経済・産業	利用	付着混入			
							○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○	○				
1	カメ目	カミツキガメ	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	特外	緊急		○																	○		○								過去に奈半利町、高知市、須崎市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。	
2	カメ目	カミツキガメ	ワニガメ	<i>Macrochelys temminckii</i>		その他(定)																												過去に高知市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。		
4	カメ目	ヌマガメ	ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>		緊急	○	○	防除対策	○																										
3	カメ目	インガメ	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>																															本州・四国・九州の個体は18世紀末に移入されて定着したと考えられている。また、近年ベトナムとして輸入された中国産個体が各地で遺棄されている可能性もある。	
5	カメ目	リクガメ	インドホシガメ	<i>Geochelone elegans</i>																															過去に安芸市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。	
6	カメ目	リクガメ	パンケーキガメ	<i>Malacochersus tornieri</i>																															過去に高知市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。	
7	カメ目	リクガメ	ヒヨウモンガメ	<i>Stigmochelys pardalis</i>																															過去に高知市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。	
8	有鱗目	ヤモリ	ミナミヤモリ	<i>Gekko hokouensis</i>					重点啓発	○																										
9	有鱗目	タテガミトカゲ(イグアナ)	グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>		重点																													過去に香南市、高知市、土佐市、四万十市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。	
10	有鱗目	メクラヘビ	ブラーミニメクラヘビ	<i>Indotyphlops braminus</i>																															過去に高知市で捕獲されている。観葉植物等に混入していたと考えられる。	
11	有鱗目	ニシキヘビ	ミドリニシキヘビ(グリーンパイソン)	<i>Morelia viridis</i>																															過去に高知市で捕獲されている。飼育個体の逸出と考えられる。	

※1 種名・学名等は、基本的に日本産爬虫両生類標準名リスト(2019年11月7日版)(日本爬虫両棲学会)に準拠し、一部は国立環境研究所侵入生物データベース(<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>)、生態系被害防止外来種リスト(2015年3月)を参考にした。

※2 外来生物法区分

特外: 外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※3 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入: 侵入予防外来種、重点: 重点対策外来種、産業: 産業管理外来種、緊急: 緊急対策外来種、その他(定): その他の定着予防外来種、その他(総): その他の総合対策外来種

※4 侵略的外来種ワースト100

世界: 世界の侵略的外来種ワースト100 日本: 日本の侵略的外来種ワースト100

※5 高知県内で注意すべき外来種カテゴリ

防除対策: 防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発: 重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理: 産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防: 定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※6 評価項目

定着段階、定着可能性、対策の実効性・可能性

「○」: 該当する

生態系被害、分布拡大・拡散、重要な地域への影響、社会被害、逸出・拡散

「◎」: 情報が有り、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」: 情報が有り、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。

「×」: 情報が有り、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「-」: 情報が無いもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。

※7 定着段階

分布拡大～まん延期: 本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。

定着初期/限定分布: 本県への定着が一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおそれがあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長いが潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。

産業利用: 本県において産業または公益的役割において重要となっており、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。

消滅・根絶: 過去において本県に侵入し野生化したものが、消滅または根絶した種。

未定着: 飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報が無い種。野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種(動物)、逸出の記録が少数ある種(植物)も含む。

※8 侵入(導入)経路

分散: 侵入地から自立的に分布域を拡大したとされる種

遺棄・逸出: 意図的に導入された種が意図的に野外に逃がされたとされる種(遺棄)、または管理下から非意図的に出た種(逸出)

混入: 植物や木材等に偶発的に付着あるいは潜伏していた個体が侵入地を生息域とした種

導入: 天敵等として導入された後、自立的に分散した種

■魚類

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6														由来 国外 国内	侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考						
							世界	日本		定着段階※7				生態系被害	分布拡大	社会被害	逸出拡散	対策の実効性・可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性							重要地域	人体	経済・産業	利用	付着混入	
										分布拡大/まん延	定着初期/限定分布	産業利用	削減・根絶																						未定着
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ(南方種)(仁淀川個体群)	<i>Lethenteron sp. S</i>																															県内の在来個体群は吉野川上流部にかろうじて存在するのみ。仁淀川の個体群は昭和初期に吉野川から移植されたが(伊藤, 1985)、吉野川は紀伊水道に開口し、土佐湾に開口する県内の一級河川とは在来の魚種の組成に大きな相違が認められることから、吉野川の県内地域由来であっても、仁淀川の個体群を移入種とするのが妥当である。
2	レビステウス	レビステウス	レビステウス(ガー)科																															飼育個体の逸出または遺棄と考えられる。	
3	レビステウス	レビステウス	アリゲーターガー	<i>Atractosteus spatula</i>	特外	その他(定)																												飼育個体の逸出または遺棄と考えられる。	
4	レビステウス	レビステウス	スポットテッドガー	<i>Lepisosteus oculatus</i>	特外	その他(定)																												飼育個体の逸出または遺棄と考えられる。	
5	レビステウス	レビステウス	ロングノーズガー	<i>Lepisosteus osseus</i>	特外	その他(定)																											飼育個体の逸出または遺棄と考えられる。		
6	ウナギ	ウナギ	ヨーロッパウナギ	<i>Anguilla anguilla</i>																													山崎(1983)によれば、四万十川に放流されたことがあるとされている。		
7	コイ	コイ	コイ(飼育品種)	<i>Cyprinus carpio</i>																														遺伝的に検証された在来個体群が残存する場所は琵琶湖北部だけである。古くから移入されており、国内に生息するコイの多くが外来コイとの交雑種と考えられている。	
8	コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>																														主に琵琶湖、淀川水系	
9	コイ	コイ	アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>																														濃尾平野以西の本州、淡路島、四国の瀬戸内側、九州北中部、長崎県壱岐島、福江島	
10	コイ	コイ	イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>																														濃尾平野、三方湖、琵琶湖、淀川、由良川、加古川の各水系	
11	コイ	コイ	シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>																														濃尾平野、琵琶湖、淀川水系、山陽地方	
12	コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>		重点																												朝鮮半島、中国、台湾	
13	コイ	コイ	ハクレン	<i>Hypophthalmichthys molitrix</i>		その他(総)																													中国、アムール川
14	コイ	コイ	ワタカ	<i>Ischikauia steenackeri</i>																														主に琵琶湖、淀川水系	
15	コイ	コイ	ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>		その他(総)		重点啓発																											主に琵琶湖、淀川水系
16	コイ	コイ	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>																															関東以西の本州、四国の瀬戸内海側、九州の北部
17	コイ	コイ	ソウギョ	<i>Otenopharyngodon idellus</i>		その他(総)																													中国、アムール川
18	コイ	コイ	ビワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</i>																															主に琵琶湖、淀川水系
19	コイ	コイ	ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>																															福井県、滋賀県、三重県以西の本州と香川県、徳島県、九州北部

魚類

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6															由来		侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考						
							世界	日本		定着段階※7					生態系被害可能性	分布拡大	社会被害	逸出拡散	対策の実効性・可能性	国外	国内																
										分布拡大／まん延	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性								導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力						気候・環境適合性	重要地域	人体	経済・産業	利用	付着混入
33	タウナギ	タウナギ	タウナギ	<i>Monopterus albus</i>						○							○	○	○	○			○	不明	東アジア	中部	河川・湖沼										
34	スズキ	スズキ	タイリクスズキ	<i>Lateolabrax maculatus</i>						○								○	○	○	○			○	遺棄・逸出	中国大陸	中部、幡多	河川・沿岸									
35	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	特外	緊急		○	防除対策	○								○	○	○	○			○	遺棄・逸出、混入	北米	中部、嶺北、幡多	河川・湖沼									
36	スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	特外	緊急	○	○	防除対策	○								○	○	○	○			○	遺棄・逸出	北米	東部、中部、嶺北、高幡、幡多	河川・湖沼									
37	スズキ	カワスズメ	カワスズメ	<i>Oreochromis mossambicus</i>		その他(総)	○			-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○			○	不明	アフリカ大陸	不明	河川・湖沼	県RDB2002に高知県内に生息する外来種として記載。分布の状況等については不明。								
38	スズキ	カワスズメ	ナイルティラピア	<i>Oreochromis niloticus</i>		その他(総)				○								○	○	○	○			○	遺棄・逸出	アフリカ大陸	中部	河川緩流域、湖沼、ダム湖、河口域	県中部で定着が確認されているが、分布は限定的と考えられるので、高知県で注意すべき外来種リストに選定していない。								
39	スズキ	ハゼ	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>						○								○	○	○	○			○	混入	日本各地	東部、中部、嶺北、高幡、幡多	河川汽水域～中流域	文献記録は、「ウキゴリ」がウキゴリ、スマウキゴリ、シマウキゴリの3種に分けられる以前のものを含む。県内の河川ではウキゴリ(国内移入種)とスマウキゴリ(在来種)の2種が確認されている。								
40	スズキ	ハゼ	ヨシノボリ属の一種(旧トウヨシノボリ)	<i>Rhinogobius</i> sp.OR <i>unidentified</i>						○								○	○	○	○			○	混入	北海道から九州までの日本各地	東部、中部、嶺北、幡多	河川上流域～下流域、池沼	国内移入種。以前、トウヨシノボリとされていたが、形態的、遺伝的に多型に分けられ、そのうち複数種が別種として記載されている。県内産の多くは琵琶湖由来の個体と思われるが詳細は不明である。								
41	スズキ	ゴクラクギョ	タイワンキンギョ	<i>Macropodus opercularis</i>										○				○	○	○	○			○	遺棄・逸出	中国	中部	淡水域、河川、溜池									
42	スズキ	タイワンドジョウ	タイワンドジョウ	<i>Channa maculata</i>						○								○	○	○	○			○	遺棄・逸出	中国南部	中部	淡水域、河川、溜池									
43	スズキ	タイワンドジョウ	カムルチー	<i>Channa argus</i>						○								○	○	○	○			○	遺棄・逸出	中国南部	中部、嶺北、幡多	淡水域、河川、溜池									

※1 種名・学名等は、基本的に河川水辺の国勢調査生物リスト(平成30年度版)(国土交通省水管理・国土保全局 水情報国土データ管理センター)に準拠し、一部は国立環境研究所侵入生物データベース(<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>)、生態系被害防止外来種リスト(2015年3月)を参考にした。

※2 外来生物法区分

特外: 外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※3 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入: 侵入予防外来種、重点: 重点対策外来種、産業: 産業管理外来種、緊急: 緊急対策外来種、その他(定): その他の定着予防外来種、その他(総): その他の総合対策外来種

※4 侵略的外来種ワースト100

世界: 世界の侵略的外来種ワースト100 日本: 日本の侵略的外来種ワースト100

※5 高知県内で注意すべき外来種カテゴリー

防除対策: 防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発: 重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後大きな被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理: 産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防: 定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※6 評価項目

定着段階、定着可能性、対策の実効性・可能性

「○」: 該当する

生態系被害、分布拡大・拡散、重要な地域への影響、社会被害、逸出・拡散

「◎」: 情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」: 情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。

「×」: 情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「-」: 情報がないもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。

※7 定着段階

分布拡大～まん延期: 本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。

定着初期/限定分布: 本県への定着が一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおそれはあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長い潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。

産業利用: 本県において産業または公益的役割において重要となっており、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。

消滅・根絶: 過去において本県に侵入し野生化したか、消滅または根絶した種。

未定着: 飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報がない種。野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種(動物)、逸出の記録が少数ある種(植物)も含む。

※8 侵入(導入)経路

分散: 侵入地から自立的に分布域を拡大したとされる種

遺棄・逸出: 意図的に導入された種が意図的に野外に逃がされたとされる種(遺棄)、または管理下から非意図的に出た種(逸出)

混入: 植物や木材等に偶発的に付着あるいは潜伏していた個体が侵入地を生息域とした種

導入: 天敵等として導入された後、自立的に分散した種

■昆虫類※

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6															由来		侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考
							世界	日本		定着段階※7			定着可能性		生態系被害		分布拡大		社会被害	逸出		対策の実効性・可能性	国外	国内							
										分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑		捕食・摂食	繁殖力				気候・環境適合性	重要地域					
										○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
22	カメムシ(半翅目)	アブラムシ	イヌホウズキクロアブラムシ	<i>Aphis fabae solanella</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	不明	幡多	農地	農業害虫		
23	カメムシ(半翅目)	アブラムシ	フウナガマダラオオアブラムシ	<i>Longistigma liquidambarus</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	不明	高知中央、幡多	農地	農業害虫		
24	カメムシ(半翅目)	アブラムシ	ムギクビレアブラムシ	<i>Rhopalosiphum padi</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	不明	高知中央、高吾北、幡多	農地	農業害虫		
25	カメムシ(半翅目)	アブラムシ	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	<i>Uroleucon nigrotuberculatum</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	不明	高知中央、幡多	農地	農業害虫		
26	カメムシ(半翅目)	カタカイガラムシ	ルビーロウムシ	<i>Ceroplastes rubens</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	アフリカ熱帯地域	全域	農地、様々な植物に寄生	農業害虫		
27	カメムシ(半翅目)	コナカイガラムシ	マデイラコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus madeirensis</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	中南米	全域	農地	農業害虫		
28	カメムシ(半翅目)	コナカイガラムシ	ナスコナカイガラムシ	<i>Phenacoccus solani</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	南米	全域	農地	農業害虫		
29	カメムシ(半翅目)	マルカイガラムシ	ヤノネカイガラムシ	<i>Unaspis yanonensis</i>				○	防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	中国	全域	農地	農業害虫		
30	カメムシ(半翅目)	ワタフキカイガラムシ	イセリアカイガラムシ	<i>Icerya purchasi</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	オーストラリア	全域	農地、様々な植物に寄生	農業害虫		
31	カメムシ(半翅目)	コナジラミ	ミカントゲコナジラミ	<i>Aleurocanthus spiniferus</i>					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	中国	全域	農地	農業害虫		
32	カメムシ(半翅目)	コナジラミ	タバココナジラミ バイオタイプBおよびバイオタイプQ	<i>Bemisia tabaci</i> Biotype B and Q					防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	北米、中東	全域	農地、様々な植物に寄生	農業害虫		
33	カメムシ(半翅目)	コナジラミ	オンシツコナジラミ	<i>Trialeurodes vaporariorum</i>				○	防除対策	○								—	—	—	○	○	○		混入、分散	北米～南米	全域	農地、様々な植物に寄生	農業害虫		
34	カメムシ(半翅目)	キジラミ	ビワキジラミ	<i>Cacopsylla biwa</i>					定着予防									○	○	—	—	—	—	—	—	(混入、分散)	不明	—	農地	農業害虫	
35	カメムシ(半翅目)	キジラミ	ミカンキジラミ	<i>Diaphorina citri</i>					定着予防									○	○	—	—	—	—	—	—	(分散)	東南アジア～中東	—	農地	農業害虫	
36	カメムシ(半翅目)	トコジラミ	トコジラミ	<i>Cimex lectularius</i>					重点啓発	○								—	—	—	—	—	—	—	○	混入、分散	中東	全域	人家	衛生害虫	
37	カメムシ(半翅目)	ウンカ	トビイロウンカ	<i>Nilaparvata lugens</i>					防除対策									○	○	—	—	—	—	—	○	分散	中国	東部、中部、幡多	農地	農業害虫(毎年確認されるが、越冬できない)	
38	カメムシ(半翅目)	ウンカ	セジロウンカ	<i>Sogatella furcifera</i>					防除対策									○	○	—	—	—	—	—	○	分散	中国	東部、中部、嶺北、幡多	農地	農業害虫(毎年確認されるが、越冬できない)	
39	カメムシ(半翅目)	ヨコバイ	フタテンヒメヨコバイ	<i>Arboridia apicalis</i>					防除対策	○								—	—	—	—	—	—	—	○	混入、分散	不明	中部	農地	農業害虫	
40	カメムシ(半翅目)	サシガメ	ヨコヅナサシガメ	<i>Agriosiphodrus dohrni</i>						○								—	—	—	—	—	—	○	混入、分散	中国、東南アジア	中部、嶺北、幡多	里地、公園			
41	カメムシ(半翅目)	ゲンバヤムシ	ブラタナスゲンバイ	<i>Corythucha ciliata</i>						○								—	—	—	—	—	—	○	混入、分散	北米	中部	市街地、公園			
42	カメムシ(半翅目)	ゲンバヤムシ	アワダチソウゲンバイ	<i>Corythucha marmorata</i>						○								—	—	—	—	—	—	○	混入、分散	北米	東部、中部、幡多	草地、里地			
43	カメムシ(半翅目)	ゲンバヤムシ	ヘクソカズラゲンバイ	<i>Dulinius conchatus</i>						○								—	—	—	—	—	—	○	混入、分散	中国、東南アジア	中部	草地、里地			
44	カメムシ(半翅目)	カスミカメ	クスベニヒラタカスミカメ	<i>Mansonella cinnamomi</i>					定着予防									○	○	—	—	—	—	—	○	(分散)	中国	—	里地、市街地、公園	クスノキの害虫	

■昆虫類※

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6															由来		侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考		
							世界	日本		定着段階※7			定着可能性		生態系被害		分布拡大		社会被害		逸出拡散		対策の実効性・可能性	国外	国内								
										分布拡大/まん延	定着初期/限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域				人体						経済・産業	利用
45	カメムシ(半翅目)	ナガカメムシ	カンシャコバナナガカメムシ	<i>Cavelerius saccharivorus</i>				○	防除対策	○																			混入、分散	台湾	東部、中部	農地、草地	農業害虫
46	カメムシ(半翅目)	カメムシ	キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>						○																			分散	東南アジア	全域	畑地、里地	
47	カメムシ(半翅目)	キンカメムシ	アカギカメムシ	<i>Cantao ocellatus</i>						○																		分散	南西諸島、東アジア~インド	東部、幡多	里地		
48	チョウ(鱗翅目)	シロチョウ	モンシロチョウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>					防除対策	○																			混入、分散	不明	東部、中部、 嶺北、幡多	農地、里地	農業害虫
49	チョウ(鱗翅目)	セセリチョウ	クロセセリ	<i>Notocrypta curvifascia curvifascia</i>					防除対策	○																		分散	九州以南	東部、中部、 嶺北、幡多	森林、里地	農業害虫	
50	チョウ(鱗翅目)	シジミチョウ	クロマダラシジミ	<i>Chilades pandava</i>																								分散	東南アジア	東部、中部、 幡多	草地	(年によって確認されるが、越冬できない)	
51	チョウ(鱗翅目)	シジミチョウ	シルビアシジミ	<i>Zizina emelina emelina</i>																								導入	本州、四国、九州、南西諸島	中部	草地	本県産の個体群が絶滅した後、他県産個体が放蝶され、繁殖している。	
52	チョウ(鱗翅目)	スズメガ	クロメンガタスズメ	<i>Acherontia lachesis</i>					防除対策	○																		分散	九州、屋久島、台湾、中国、東南アジア、インド	中部、高幡、 幡多	農地、里地	農業害虫	
53	チョウ(鱗翅目)	イラガ	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida lepida</i>				○	防除対策	○																		混入、分散	南アジア	中部、高幡、 幡多	里地、公園	農業害虫	
54	チョウ(鱗翅目)	マダラガ	タケノホソクロバ	<i>Fuscicornia martini</i>																								混入、分散	不明	東部、中部	里地		
55	チョウ(鱗翅目)	メイガ	スジマダラメイガ	<i>Cadra cautella</i>																								混入、分散	不明	中部	里地、家屋	貯穀害虫	
56	チョウ(鱗翅目)	メイガ	スジコナマダラメイガ	<i>Ephestia kuehniella</i>						○																		混入、分散	不明	全域	里地、家屋	貯穀害虫	
57	チョウ(鱗翅目)	メイガ	ツツリガ	<i>Paralipsa gularis</i>						○																		混入、分散	不明	中部	里地、家屋		
58	チョウ(鱗翅目)	メイガ	シバツトガ	<i>Parapediasia teterrella</i>						○																		混入、分散	北米	東部、中部	草地		
59	チョウ(鱗翅目)	メイガ	ノシメマダラメイガ	<i>Plodia interpunctella</i>						○																		混入、分散	インド	全域	里地、家屋	貯穀害虫	
60	チョウ(鱗翅目)	メイガ	イッテンオオメイガ	<i>Scirpophaga incertulas</i>					防除対策	○																		混入、分散	東南アジア	幡多	里地	農業害虫	
61	チョウ(鱗翅目)	ヒトリガ	アメリカシロヒトリ	<i>Hyphantria cunea</i>				○																				混入、分散	北米	嶺北	市街地	一時的に発生することがある。	
62	チョウ(鱗翅目)	ヒトリモドキガ	イチジクヒトリモドキ	<i>Asota ficus</i>					防除対策	○																		分散	インド	全域	森林、里地	農業害虫	
63	チョウ(鱗翅目)	ヤガ	ヤクシマヒメキシタバ	<i>Catocala tokui</i>						○																		分散	屋久島、対馬、紀伊半島	幡多	森林、里地		
64	チョウ(鱗翅目)	ヤガ	オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera armigera</i>					防除対策	○																		混入、分散	東南アジア	東部、中部、 嶺北	森林、里地	農業害虫	
65	チョウ(鱗翅目)	ヤガ	ツマジロクサヨトウ	<i>Spodoptera frugiperda</i>					定着予防																			(混入、分散)	北米~南米	—	農地、里地	農業害虫	
66	チョウ(鱗翅目)	ヤガ	ニセタマナヤガ	<i>Peridroma saucia</i>						○																		混入、分散	中南米	中部	森林、里地		

■昆虫類※

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6														由来		侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考			
							世界	日本		定着段階※7							生態系被害				分布拡大			社会被害	逸出拡散						対策の実効性・可能性	国外	国内
										分布拡大 大々まん延	定着初期 / 限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域	人体										
90	コウチュウ(鞘翅目)	ネスイムシ	トビイロデオネスイ	Monotoma picipes																				○		混入、分散	不明	中部	里地				
91	コウチュウ(鞘翅目)	ケンクスイ	クリイロデオクスイ	Carpophilus marginellus																				○		混入、分散	不明	中部、幡多	里地				
92	コウチュウ(鞘翅目)	ホソヒラタムシ	カドコブホソヒラタムシ	Ahasverus advena																				○		混入、分散	不明	中部	里地				
93	コウチュウ(鞘翅目)	ホソヒラタムシ	ノコギリヒラタムシ	Oryzaephilus surinamensis																				○		混入、分散	不明	全域	里地	衛生害虫			
94	コウチュウ(鞘翅目)	ホソヒラタムシ	フタトゲホソヒラタムシ	Silvans bidentatus																				○		混入、分散	不明	東部、中部	里地				
95	コウチュウ(鞘翅目)	アリモドキ	アトグロホソアリモドキ	Anthicus floralis																				○		混入、分散	不明	中部	里地	(毎年確認されるが、越冬できない)			
96	コウチュウ(鞘翅目)	コキノコムシ	チャイロコキノコムシ	Typhaea stercorea																				○		混入、分散	不明	東部、中部	里地、圃場				
97	コウチュウ(鞘翅目)	カミキリモドキ	ツماغロカミキリモドキ	Nacerdex melanula																				○		混入、分散	不明	幡多	里地	(毎年確認されるが、越冬できない)			
98	コウチュウ(鞘翅目)	ゴミムシダマシ	ガイマイゴミムシダマシ	Alphitobius diaperinus																				○		混入、分散	不明	東部、中部	家屋				
99	コウチュウ(鞘翅目)	ゴミムシダマシ	チャイロコモゴミムシダマシ	Tenebrio molitor																				○		混入、分散	欧州	全域	家屋	衛生害虫			
100	コウチュウ(鞘翅目)	ゴミムシダマシ	コクヌストモドキ	Tribolium castaneum																				○		混入、分散	オーストラリア	東部、中部	家屋				
101	コウチュウ(鞘翅目)	カミキリムシ	クビアカツヤカミキリ	Aromia bungii	特外	その他(総)			定着予防																○	(分散)	中国	—	農地、公園	バラ科樹木の害虫			
102	コウチュウ(鞘翅目)	カミキリムシ	ツシムムナクボカミキリ	Cephalallus unicolor																				○		混入、分散	中国	中部、嶺北、幡多	森林、里地				
103	コウチュウ(鞘翅目)	カミキリムシ	ラミーカミキリ	Paraglenea fortunei																				○		混入、分散	中国	東部、中部、嶺北、幡多	里地				
104	コウチュウ(鞘翅目)	カミキリムシ	キボシカミキリ本土個体群	Psacotheta hilaris subsp.																				○		不明	中国	中部、嶺北	里地	本土個体群(東日本型)が外来種とされ、西日本型は在来種か外来種か明らかではない。			
105	コウチュウ(鞘翅目)	ハムシ	ソラマメゾウムシ	Bruchus rufimanus					防除対策															○		混入、分散	中国	中部	農地	農業害虫			
106	コウチュウ(鞘翅目)	ハムシ	アズキマメゾウムシ	Callosobruchus chinensis																				○		混入、分散	不明	中部、幡多	里地、圃場				
107	コウチュウ(鞘翅目)	ハムシ	ヨツモンカメノコハムシ	Lacoptera nepalensis					防除対策															○		混入、分散	沖縄本島以南、台湾、中国~インド	東部、中部、幡多	農地、草地	農業害虫			
108	コウチュウ(鞘翅目)	ハムシ	バタクサハムシ	Ophraella communa																				○		混入、分散	北米	東部、中部、幡多	草地				
109	コウチュウ(鞘翅目)	ハムシ	イネクビボソハムシ	Oulema oryzae																				○		混入、分散	不明	中部	農地、草地				
110	コウチュウ(鞘翅目)	ヒゲナガゾウムシ	ワタミヒゲナガゾウムシ	Araecerus coffeae																				○		混入、分散	不明	東部、中部	里地、農地				
111	コウチュウ(鞘翅目)	ミツギリゾウムシ	アリモドキゾウムシ	Cylas formicarius					定着予防															○		(混入、分散)	インドまたはインドシナ半島	—	里地、農地	農業害虫(サツマイモ)			
113	コウチュウ(鞘翅目)	ゾウムシ	オオタコゾウムシ	Donus punctatus																				○		混入、分散	欧州	中部	草地				

■昆虫類※

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリ※5	評価項目※6															由来 国外 国内	侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考			
							世界	日本		定着段階※7					定着可能性				生態系被害			分布拡大									社会被害 人体	逸出 拡散	対策の実効性・可能性
										分布拡大 まん延	定着初期/ 限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域											
																															定着可能性	導入可能性	競争
112	コウチュウ(鞘翅目)	ゾウムシ	アルファルファタコゾウムシ	<i>Hypera postica</i>				○																○	混入、分散	欧州	東部、中部、 轄多	草地、圃場					
114	コウチュウ(鞘翅目)	ゾウムシ	イネミズゾウムシ	<i>Lissorhoptrus oryzophilus</i>				○	防除対策															○	混入、分散	北米～南米	東部、中部、 嶺北、轄多	圃場	農業害虫				
115	コウチュウ(鞘翅目)	ゾウムシ	ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>				○	防除対策															○	混入、分散	南米	中部	農地	農業害虫				
116	コウチュウ(鞘翅目)	オサゾウムシ	コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i>				○																○	混入、分散	不明	中部	家屋	貯穀害虫				
117	コウチュウ(鞘翅目)	オサゾウムシ	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus vestitus</i>				○																○	混入、分散	北米	轄多	草地					
118	ハチ(膜翅目)	オナガコバチ	チュウゴクオナガコバチ	<i>Torymus sinensis</i>				○		○														○	導入	中国	全域	農地	天敵利用				
119	ハチ(膜翅目)	ツヤコバチ	ヤノネキイロコバチ	<i>Aphytis yanonensis</i>				○		○														○	導入	中国	全域	農地	天敵利用				
120	ハチ(膜翅目)	ツヤコバチ	ヤノネツヤコバチ	<i>Coccobius fulvus</i>				○		○														○	導入	中国	全域	農地	天敵利用				
121	ハチ(膜翅目)	ツヤコバチ	オンシツツヤコバチ	<i>Encarsia formosa</i>				○		○														○	導入	中国	全域	農地	天敵利用				
122	ハチ(膜翅目)	ツヤコバチ	シルベストリコバチ	<i>Encarsia smithi</i>				○		○														○	導入	中国	全域	農地	天敵利用				
123	ハチ(膜翅目)	トビコバチ	ルビーアカヤドリトビコバチ	<i>Anicetus beneficus</i>				○		○														○	導入	中国	全域	農地	天敵利用				
124	ハチ(膜翅目)	タマバチ	クリタマバチ	<i>Dryocosmus kuriphilus</i>				○	防除対策															○	混入、分散	中国	全域	森林、里地	農業害虫				
125	ハチ(膜翅目)	アリ	トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>				○																○	混入、分散	不明	東部、中部、 嶺北、轄多	森林、草地					
126	ハチ(膜翅目)	アリ	カワラケアリ	<i>Lasius sakagami</i>				○																○	混入、分散	不明	中部	草地					
127	ハチ(膜翅目)	アリ	アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>	特外	緊急	○	○	定着予防																○	(混入、分散)	南米	—	市街地、農地、 家屋	衛生害虫(刺咬昆虫)			
128	ハチ(膜翅目)	アリ	イエヒメアリ	<i>Monomorium pharaonis</i>				○																○	混入、分散	アフリカ	全域	市街地、家屋	衛生害虫				
129	ハチ(膜翅目)	アリ	ヒゲナガアメイロアリ	<i>Paratrechina longicornis</i>						○														○	混入、分散	不明	東部	里地					
130	ハチ(膜翅目)	アリ	アカカミアリ	<i>Solenopsis geminata</i>	特外	緊急			定着予防																○	(混入、分散)	南米	—	草地	衛生害虫(刺咬昆虫)			
131	ハチ(膜翅目)	アリ	ヒアリ(アカヒアリ)	<i>Solenopsis invicta</i>	特外	侵入			定着予防																○	(混入、分散)	南米	—	草地	衛生害虫(刺咬昆虫)			
132	ハチ(膜翅目)	アリ	アワテコヌカアリ	<i>Tapinoma melanocephalum</i>						○														○	混入、分散	九州(鹿児島県)、 屋久島、 南西諸島、 小笠原、台湾、 ハワイ、 熱帯・ 亜熱帯	東部、中部	草地					
133	ハチ(膜翅目)	スズメバチ	ツマアカスズメバチ	<i>Vespa velutina</i>		緊急			定着予防																○	(分散)	中国、東南アジア	—	森林、里地	衛生害虫(刺咬昆虫)			

■昆虫類※

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6															由来		侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考											
							世界	日本		定着段階※7					定着可能性		生態系被害		分布拡大		社会被害		逸出拡散		対策の実効性・可能性	国外						国内										
										分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域	人体	経済・産業									利用	付着混入								
134	ハチ(膜翅目)	アナバチ	アメリカジガバチ	<i>Sceliphron caementarium</i>						○																										混入、分散	北米～南米	東部、中部、 幡多	里地、草地			
135	ハチ(膜翅目)	ミツバチ	セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>						○	○																										導入	欧州	東部、中部、 嶺北、幡多	里地、草地		
136	ハチ(膜翅目)	ミツバチ	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	特外	産業		○																														導入	欧州	東部	里地、草地	花粉媒介昆虫(北方の種、高知県では定着できない)

※昆虫類は種類数が多いため、高知県内で確認されている生態系被害防止外来種リスト掲載種のほか、県の生態系や産業に影響が大きいと考えられる種を抽出し、整理した。

※1 種名・学名等は、国立環境研究所侵入生物データベース(<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>)、河川水辺の国勢調査生物リスト(平成30年度版)(国土交通省水管理・国土保全局 水情報国土データ管理センター)、生態系被害防止外来種リスト(2015年3月)に準拠し、一部は学識者ヒアリングによる。

※2 外来生物法区分

特外: 外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※3 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入: 侵入予防外来種、重点: 重点対策外来種、産業: 産業管理外来種、緊急: 緊急対策外来種、その他(定): その他の定着予防外来種、その他(総): その他の総合対策外来種

※4 侵略的外来種ワースト100

世界: 世界の侵略的外来種ワースト100 日本: 日本の侵略的外来種ワースト100

※5 高知県内で注意すべき外来種カテゴリー

防除対策: 防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発: 重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理: 産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防: 定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※6 評価項目

定着段階、定着可能性、対策の実効性・可能性

「○」: 該当する

生態系被害、分布拡大・拡散、重要な地域への影響、社会被害、逸出・拡散

「◎」: 情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」: 情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。

「×」: 情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「-」: 情報がないもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。

※7 定着段階

分布拡大～まん延期: 本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。

定着初期／限定分布: 本県への定着が一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおそれはあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長いが潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。

産業利用: 本県において産業または公益的役割において重要となり、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。

消滅・根絶: 過去において本県に侵入し野生化した種が、消滅または根絶した種。

未定着: 飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報がない種。野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種(動物)、逸出の記録が少数ある種(植物)も含む。

※8 侵入(導入)経路

分散: 侵入地から自立的に分布域を拡大したとされる種

遺棄・逸出: 意図的に導入された種が意図的に野外に逃がされたとされる種(遺棄)、または管理下から非意図的に出た種(逸出)

混入: 植物や木材等に偶発的に付着あるいは潜伏していた個体が侵入地を生息域とした種

導入: 天敵等として導入された後、自立的に分散した種

■クモ・サソリ類※

番号	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リスト※5	評価項目※6															侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考			
							世界	日本		定着段階※7					定着可能性		生態系被害		分布拡大		社会被害		逸出拡散							対策の実効性・可能性	国外	国内
										分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域	人体	経済・産業								
							○																									
1	オビヤスデ	ヤケヤスデ	ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>		その他(総)																				混入、分散	台湾	中部、幅多	住宅地、農地、里地・里山的環境	大量発生し不快害虫となる。		
2	クモ	ヒメグモ	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	特外	緊急			定着予防																	(混入、分散)	亜熱帯地方	—	里地、市街地			
3	クモ	ヒメグモ	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i>	特外	緊急		○	防除対策																	混入、分散	オーストラリア	東部、中部	里地、市街地			
4	クモ	ヒメグモ	クロゴケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>	特外	緊急			定着予防																	(混入、分散)	北米	—	里地、市街地			
5	サソリモドキ	サソリモドキ	アマミサソリモドキ	<i>Typopeltis stimpsonii</i>																						混入、分散	国内移入	幅多	森林、農地			

※本リストは、高知県内で確認されている生態系被害防止外来種リスト掲載種のほか、県の生態系や産業に影響が大きいと考えられる種を抽出し、整理した。

※1 種名・学名等は、基本的に生態系被害防止外来種リスト(2015年3月)に準拠し、一部は日本産土壌動物(東海大学出版会、1999)を参考にした。

※2 外来生物法区分

特外: 外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※3 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入: 侵入予防外来種、重点: 重点対策外来種、産業: 産業管理外来種、緊急: 緊急対策外来種、その他(定): その他の定着予防外来種、その他(総): その他の総合対策外来種

※4 侵略的外来種ワースト100

世界: 世界の侵略的外来種ワースト100 日本: 日本の侵略的外来種ワースト100

※5 高知県内で注意すべき外来種カテゴリー

防除対策: 防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発: 重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理: 産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防: 定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※6 評価項目

定着段階、定着可能性、対策の実効性・可能性

「○」: 該当する

生態系被害、分布拡大・拡散、重要な地域への影響、社会被害、逸出・拡散

「◎」: 情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」: 情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性はある」といえる。

「×」: 情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「-」: 情報がないもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。

※7 定着段階

分布拡大～まん延期: 本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。

定着初期／限定分布: 本県への定着が一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおそれはあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長いが潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。

産業利用: 本県において産業または公益的役割において重要となっており、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。

消滅・根絶: 過去において本県に侵入し野生化したが生息地がなくなり、消滅または根絶した種。

未定着: 飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報がない種。野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種(動物)、逸出の記録が少数ある種(植物)も含む。

※8 侵入(導入)経路

分散: 侵入地から自立的に分布域を拡大したとされる種

遺棄・逸出: 意図的に導入された種が意図的に野外に逃がされたとされる種(遺棄)、または管理下から非意図的に出た種(逸出)

混入: 植物や木材等に偶発的に付着あるいは潜伏していた個体が侵入地を生息域とした種

導入: 天敵等として導入された後、自立的に分散した種

■その他の無脊椎動物(昆虫・クモ・サソリ類以外)※

番号	綱※1	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	評価項目※6																	侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考			
								世界	日本		定着段階※7							生態系被害	分布拡大	社会被害		逸出拡散	対策の実効性・可能性	由来 国外	国内										
											分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性			競争	交雑					捕食・摂食	繁殖力						気候・環境適合性	重要地域	人体
								○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○
24	二枚貝	マルスダレガイ	マルスダレガイ	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>		その他(総)																			—	北米	—	潮間帯や水深15mまでの砂泥底域	県内で食用として生体で販売されていることがある。					
25	二枚貝	マルスダレガイ	マルスダレガイ	シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>		その他(総)	○																		—	中国、朝鮮半島南部	—	潮間帯下の細礫や砂泥底域	県内で食用として生体で販売されていることがある。					
26	ゴカイ	ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カニヤドリカンザシゴカイ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>		その他(総)																			混入	インド洋またはオーストラリア周辺海域	幡多	内湾、河口域						
27	ゴカイ	ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>		その他(総)	○	重点啓発																	混入	不明	中部、幡多	内湾、河口域						
28	顎脚	フジツボ	フジツボ	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		その他(総)																			混入	太平洋熱帯海域	中部、幡多	内湾、港湾						
29	顎脚	フジツボ	フジツボ	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>		その他(総)																			混入	北米南部～南米北部の太平洋岸	東部、中部、高幡、幡多	内湾、河口、港湾						
30	顎脚	フジツボ	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>		その他(総)																			混入	欧州中部	中部	内湾、河口、港湾						
31	顎脚	フジツボ	フジツボ	サンカクフジツボ(浦戸湾個体群)	<i>Balanus trigonus</i>		その他(総)																			混入	本州以南の暖流流域	中部	潮間帯下から深海にかけて	外洋生性の種であり、本来の生息環境と異なる湾内の浅海域で確認されている。					
32	顎脚	フジツボ	フジツボ	ココボーマアカフジツボ	<i>Megabalanus coccopoma</i>		その他(総)																			混入	中南米太平洋岸	中部、幡多	海岸、内湾						
33	鯉脚	カブトエビ	カブトエビ	アメリカカブトエビ	<i>Triops longicaudatus</i>		その他(総)																			遺棄・逸出、混入	北米～中米	中部	水田	県内中部で確認された記録がある。					
34	軟甲	ヨコエビ	マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>		その他(総)																			混入	アメリカ合衆国南東部	中部	止水環境	県内中部で確認された記録がある。					
35	軟甲	エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>		緊急	○	重点啓発	○																遺棄・逸出	アメリカ合衆国	東部、中部、嶺北、高幡、幡多	水路、池沼、水田						
36	軟甲	エビ	ワタリガニ科	アオガニ	<i>Callinectes sapidus</i>		その他(総)																			混入	北米大陸太平洋岸	中部	海水・汽水域						
37	軟甲	エビ	ワタリガニ科	モンツキイシガニ	<i>Charybdis lucifera</i>		その他(総)																			不明	インド・西太平洋熱帯域	中部、高幡	海水・汽水域	自然分布の可能性もある。					
38	軟甲	エビ	イッカクモガニ科	イッカクモガニ	<i>Pyromaia tuberculata</i>		その他(総)																			混入	北米から中米の太平洋沿岸	中部	内湾						
39	被喉	ハネコケムシ	オオマリコケムシ	オオマリコケムシ	<i>Pectinatella magnifica</i>		その他(総)																			混入	北米東部	幡多	湖沼						
40	ホヤ	マボヤ	ボトリルス	クロマメイタボヤ	<i>Polyandrocarpa zorritensis</i>		その他(総)																			混入	不明	中部	内湾湖下帯						

■その他の無脊椎動物(昆虫・クモ・サソリ類以外)※

番号	綱※1	目※1	科※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		評価項目※6																侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生息環境	備考		
								世界	日本	定着段階※7						定着可能性		生態系被害		分布拡大		社会被害		逸出拡散							対策の実効性・可能性	
										分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	重要地域	人体	経済・産業	利用						付着混入	国外

※本リストは、高知県内で確認されている生態系被害防止外来種リスト掲載種のほか、県の生態系や産業に影響が大きいと考えられる種を抽出し、整理した。

※1 種名・学名等は、基本的に河川水辺の国勢調査生物リスト(平成30年度版)(国土交通省水管理・国土保全局 水情報国土データ管理センター)に準拠し、一部は国立環境研究所侵入生物データベース(<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/>)、生態系被害防止外来種リスト(2015年3月)を参考にした。

※2 外来生物法区分

特外:外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※3 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入:侵入予防外来種、重点:重点対策外来種、産業:産業管理外来種、緊急:緊急対策外来種、その他(定):その他の定着予防外来種、その他(総):その他の総合対策外来種

※4 侵略的外来種ワースト100

世界:世界の侵略的外来種ワースト100 日本:日本の侵略的外来種ワースト100

※5 高知県内で注意すべき外来種カテゴリ

防除対策:防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発:重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理:産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度程度の社会経済的效果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防:定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※6 評価項目

定着段階、定着可能性、対策の実効性・可能性

「○」:該当する

生態系被害、分布拡大・拡散、重要な地域への影響、社会被害、逸出・拡散

「◎」:情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」:情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。

「×」:情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「-」:情報がないもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。

※7 定着段階

分布拡大～まん延期:本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。

定着初期／限定分布:本県への定着が一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおそれはあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長い潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。

産業利用:本県において産業または公益的役割において重要となっており、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。

消滅・根絶:過去において本県に侵入し野生化したのが、消滅または根絶した種。

未定着:飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報がない種。野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種(動物)、逸出の記録が少数ある種(植物)も含む。

※8 侵入(導入)経路

分散:侵入地から自立的に分布域を拡大したとされる種

遺棄・逸出:意図的に導入された種が意図的に野外に逃がされたとされる種(遺棄)、または管理下から非意図的に出た種(逸出)

混入:植物や木材等に偶発的に付着あるいは潜伏していた個体が侵入地を生息域とした種

導入:天敵等として導入された後、自立的に分散した種

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ファースト100※4		評価項目※6																	侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考							
						世界	日本	定着段階※7							生態系被害				分布拡大			重要地域	社会被害	経済・産業						逸出拡散	対策の実効性・可能性	由来				
								高知県内で注意すべき外来種リストカテゴリ※5	分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	分散能力	繁殖力	気候・環境適合性											永続性	国内	国外		
1	イワヒバ	コンテリクラマゴケ	<i>Selaginella uncinata</i>		その他(総)		重点啓発	○									◎	-	-	○	◎	◎	◎	○	-	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	中国南部	県内各地	明るい日陰。	
2	サンショウモ	外来アゾラ類※9	<i>Azolla</i> spp.	特外	緊急		重点啓発	○									◎	◎	○	◎	◎	◎	○	-	○	○	-	◎	-	○		遺棄・逸出	世界各地	東・中・西部の一部	湖沼、水田、水路など日当たりの良い浅水域。	特定外来生物に指定されているアゾラ・クリスタータを含むアゾラ属の数種。同属在来種であるアカウキクサは環境省レッドリストで絶滅危惧IB類、高知県レッドリストで準絶滅危惧に指定されている。
3	ハゴロモモ	ハゴロモモ	<i>Cabomba caroliniana</i>		重点		重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	-	-	○	○	-	-	○		遺棄・逸出	北アメリカ東南部	中・西部の一部	湖沼、ため池、河川、水路など、止水または流れが穏やかな場所。	節を含む断片から再生する。
4	スイレン	スイレン属の園芸品種※9	<i>Nymphaea</i> cv.		重点		重点啓発	○									◎	○	-	◎	◎	◎	◎	-	-	(◎)	◎	-	-	○		遺棄・逸出	園芸作出	西部の一部	湖沼、水路、人里近くのため池。	
5	サトイモ	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	特外	緊急	○	防除対策	○									◎	x	-	◎	◎	◎	◎	-	-	○	-	-	○	○		遺棄・逸出	南アフリカ	東・中部の一部	湖沼、河川、水田、水路、湿地など日当たりの良いところ。	
6	オモダカ	ミズヒナゲシ	<i>Hydrocleys nymphoides</i>		重点		重点啓発	○									◎	-	-	-	◎	○	○	-	-	○	○	-	-	○		遺棄・逸出	南アメリカ	東・中部の一部	池沼、水路など。	茎の節から根や葉を出して増える。
7	トチカガミ	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>		重点	○	重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	○	-	-	○		遺棄・逸出	南アメリカ	中部を中心に分布	湖沼、河川、水路など。	切れ藻(断片)から再生する。
8	トチカガミ	コカナダモ	<i>Eloдея nuttallii</i>		重点	○	重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	○	◎	-	○		遺棄・逸出	北アメリカ	中部の一部	湖沼、河川、池、溝、水路など。	切れ藻(断片)から再生する。
9	トチカガミ	アマゾントチカガミ	<i>Limnobium laevigatum</i>		重点		重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	-	-	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	南アメリカ	中部の一部	湖沼、ため池、河川の淀みや水路など、日当たりの良いところ。	
10	ユリズイセン	ユリズイセン	<i>Alstroemeria pulchella</i>		重点		重点啓発	○									◎	-	-	-	◎	○	○	-	-	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	ブラジル北部	県内散在	人家近くの路傍、畑など。	同属の園芸品種も注意が必要。
11	ユリ	シンテツボウユリ	<i>Lilium ×formolongo</i>		その他(総)		重点啓発	○									○	◎	-	◎	◎	◎	○	◎	-	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	園芸作出	県内各地	路傍、道路法面、石垣の隙間、河川敷から山間部まで。	タカサゴユリ含む
12	アヤメ	ヒメヒオウギズイセン	<i>Crocoshia ×crocoshiiiflora</i>		その他(総)		重点啓発	○									◎	x	-	○	◎	◎	◎	-	-	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	南アフリカ	県内各地	海岸の草地、荒地、河川敷、湿った林床など。	
13	アヤメ	キシウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		重点	○	重点啓発	○									◎	○	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	(○)	◎	-	-	○		遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内散在	湖沼、ため池、河川、水路、湿った畑地、林縁、湿原、草地。	日当たりの良い水湿地を好むが、乾燥にもやや耐える。
14	ヒガンバナ	ハタケニラ	<i>Nothoscordum gracile</i>		重点		重点啓発	○									◎	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	◎	-	-	-	○		遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	畑地など。	
15	キジカクシ	アオノリュウゼツラン	<i>Agave americana</i>		重点		防除対策	○									◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	○	-	○	○		遺棄・逸出	熱帯アメリカ	東部の一部	海岸の崖地、砂丘、岩地、草原、攪乱地、森林、低木林、川岸など。	室戸岬に生育している。
16	キジカクシ	アツバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i>		重点		重点啓発	○									◎	x	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	アメリカ合衆国南部	中部の一部	砂浜、礫浜。	
17	ヤシ	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>		その他(総)		重点啓発	○									◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	○	-	-	◎	-	-	○		遺棄・逸出	インド北部、ネパール、ビルマ北部、中国南部、九州	県内各地	森林。	
18	ヤシ	トウジュロ	<i>Trachycarpus wagnerianus</i>		その他(総)		重点啓発	○									◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	○	-	-	◎	-	○	○		遺棄・逸出	中国	東部の一部	森林。	
19	ツユクサ	アレチイボクサ	<i>Murdannia nudiflora</i>		重点		重点啓発	○									◎	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	◎	-	-	-	○		遺棄・逸出	熱帯アジア	中部の一部	川の土手、芝地、舗装された道路や駐車場の隙間など。	
20	ツユクサ	トキワツユクサ(ノハカタカラクサ)	<i>Tradescantia fluminensis</i>		重点		重点啓発	○									◎	x	-	○	◎	◎	◎	○	-	-	○	-	-	○		遺棄・逸出	南アメリカ	県内各地	石垣、崖地、路傍、林床、林縁、河原、湿地など、やや湿った日陰。	
21	ミズアオイ	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>		重点	○	防除対策	○									◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	◎	-	○	○		遺棄・逸出	アルゼンチン	県内散在	湖沼、ため池、河川、水路、水田など。	
22	カヤツリグサ	シュロガヤツリ	<i>Cyperus alternifolius</i> subsp. <i>flabelliformis</i>		重点		重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	◎	-	○	○	-	-	○		遺棄・逸出	マダガスカル	東・西部を中心に分布	池沼、河川、湿地など。	

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ファースト100※4		評価項目※6																侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考												
						世界	日本	定着段階※7							生態系被害				分布拡大				重要地域						社会被害	経済・産業	逸出拡散	付着混入	対策の実効性・可能性	由来						
								高知県内で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	分布拡大/限定分布	定着初期/限定分布	産業利用	削減・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	分散能力	繁殖力	気候・環境適合性	永続性																		
23	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	Cyperus eragrostis		重点			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	-	(○)	-	-	-	○	分散	熱帯アメリカ	中部を中心に分布	畑地、河川、溝、湿地、水田など。		
23	カヤツリグサ	シヨクヨウガヤツリ	Cyperus esculentus					重点啓発	○									◎	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	不詳	県内散在	畑地、水田、牧草地など。		
25	イネ	コヌカグサ	Agrostis gigantea		産業			産業管理	○	○								◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	北半球の温帯	県内各地	畑地、河川、溝、湿地、水田など。		
23	イネ	メリケンカルカヤ	Andropogon virginicus		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	◎	○	-	(○)	-	-	-	-	-	○	分散	北アメリカ	県内各地	草地、畑地、水田の畦、樹園地、牧草地、道端、荒地、芝地など。			
23	イネ	ハルガヤ	Anthoxanthum odoratum		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	○	○	○	(○)	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	ユーラシア	中・西部の一部	牧草地、放牧地、路傍、荒地、草地、河原、森林、樹園地、海岸砂丘、湿地、山地。		
28	イネ	カモガヤ	Dactylis glomerata		産業		○	産業管理	○	○								◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	-	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ～西アジア	県内各地	畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域など。		
23	イネ	シナダレスズメガヤ	Eragrostis curvula		重点		○	重点啓発	○									◎	x	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	-	○	○	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	南アフリカ	県内各地	牧草地、路傍、荒地、河原、法面、低木林、草地など。		
30	イネ	ネズミムギ	Lolium multiflorum		産業			産業管理	○	○								◎	x	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	-	-	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ～北西アフリカ	県内各地	畑地、樹園地、空地、路傍、牧草地、荒地、芝地など。	エダウチネズミギ含む	
31	イネ	ホソムギ	Lolium perenne		産業			産業管理	○	○								◎	x	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ・温帯アジア・北アフリカ・南西アジア	県内各地	畑地、樹園地、空地、路傍、牧草地、荒地、芝地など。	エダウチホソムギ含む
32	イネ	オオクサキビ	Panicum dichotomiflorum		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	○	-	○	◎	◎	-	-	-	-	○	混入、分散	北アメリカ	県内各地	湿地、路傍、荒地、河川敷、草地、畑地、水田、樹園地、牧草地など。		
33	イネ	シマズメノヒエ	Paspalum dilatatum		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	○	-	○	◎	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	南アメリカ	県内各地	畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地、鉄道、川岸、土手、草地、湿地など。		
34	イネ	キシウスズメノヒエ	Paspalum distichum var. distichum		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	○	-	◎	-	-	-	-	-	○	分散	世界の熱帯	県内散在	湿地、水路、河川、水田、池沼、ため池など。		
35	イネ	チクソズメノヒエ	Paspalum distichum var. indutum		重点			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	○	-	◎	-	-	-	-	-	○	分散	北アメリカ南部	中部の一部	湿地、水路、河川、水田、池沼、ため池など。		
36	イネ	アメリカスズメノヒエ	Paspalum notatum		産業			産業管理	○	○								◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	(◎)	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	畑地、樹園地、牧草地、水田、路傍、土手、耕作放棄地、砂地など。		
37	イネ	タチズメノヒエ	Paspalum urvillei		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	○	-	◎	◎	-	-	-	-	○	分散	南アメリカ	県内各地	芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園など。		
38	イネ	オオアワガエリ	Phleum pratense		産業			産業管理	○	○								◎	○	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	ユーラシア	中部	畑地、樹園地、道端、荒地、河原、空地、草地、牧草地など、平野部から山地。	
39	イネ	オオスズメノカタビラ	Poa trivialis subsp. trivialis					重点啓発	○									◎	-	-	-	◎	◎	◎	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ～西アジア	県内各地	草地、荒地など。	
40	イネタケ垂	モウソウチク	Phyllostachys edulis		産業			産業管理	○	○								◎	x	◎	-	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	中国	県内散在	人家周辺の適湿地の二次林、植林、自然林。		
41	イネタケ垂	ハチク	Phyllostachys nigra var. henonis		産業			産業管理	○	○								◎	x	◎	-	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	中国または日本	中部を中心に分布	人家周辺の適湿地の二次林、植林、自然林。		
42	イネタケ垂	マダケ	Phyllostachys reticulata		産業			産業管理	○	○								◎	x	◎	-	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	-	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	日本(中国原産という説もある)	県内散在	人家周辺の適湿地の二次林、植林、自然林。	
43	イネ	ヨシヌスキ	Saccharum arundinaceum		重点			重点啓発	○									◎	-	-	○	◎	◎	◎	◎	-	-	○	◎	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	インド～東南アジア	中部を中心に分布	法面、荒地、空地、草地。		
44	イネ	オニシノケグサ	Schedonorus phoenix		産業		○	産業管理	○	○								◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	(○)	◎	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内各地	牧草地、市街地、路傍、河川敷、空地、畑地、樹園地、荒地、草地、林縁湿地、塩湿地、海岸など。		
45	イネ	セイバンモロコシ	Sorghum propinquum		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	(◎)	◎	-	-	-	-	-	○	遺棄・逸出	地中海	県内各地	畑地、樹園地、牧草地、路傍、堤防、河川敷、荒地、空地、林縁など。	

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ファースト100※4		評価項目※6															侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考															
						世界	日本	定着段階※7					生態系被害	分布拡大					重要地域	社会被害	逸出	対策の実効性・可能性						由来														
								高知県内で注意すべき外来種リストトカテゴリ※5	分布拡大／限定分布	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶		未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑										捕食・摂食	分散能力	繁殖力	気候・環境適合性	永続性	国内	国外								
46	イネ	ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>		産業		産業管理	○	○																										遺棄・逸出	地中海地方～西アジア	県内各地	畑地、牧草地、庭、荒地、路傍、草地、河口、砂丘、塩湿地、林地、河川域など。				
47	ケシ	シラクケシ	<i>Eomecon chionantha</i>				重点啓発	○																											遺棄・逸出	中国東部	県内散在	人家近くの路傍など。				
48	ケシ	アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> subsp. <i>setigerum</i>		その他(総)		防除対策	○																											分散	北アフリカ	中部・嶺北の一部	線路や道路沿いの空地、市街地、荒地。	あへん法により栽培、採取等が禁じられている。			
	ベンケイソウ	カラコエ属※9	<i>Kalanchoe</i> spp.																																							
49	ベンケイソウ	コダカラベンケイ×キンチョウ(品種名:フシチョウ)	<i>Kalanchoe daigremontiana</i> × <i>K. tubiflora</i>				重点啓発	○																												遺棄・逸出	交配種	東・中部の一部	海浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁など。			
50	ベンケイソウ	キンチョウ	<i>Kalanchoe tubiflora</i>				重点啓発	○																												遺棄・逸出	マダガスカル	東・中部	海浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁など。			
51	ベンケイソウ	セイロンベンケイ	<i>Kalanchoe pinnata</i>		重点		重点啓発	○																												遺棄・逸出	熱帯アメリカ	東部の一部	海浜地、岩石地、崖地、山地の裸地や路傍、林縁など。			
52	ベンケイソウ	オカタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>Oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>				重点啓発	○																												遺棄・逸出	不詳	東・西部の沿岸地域	市街地の空地、路傍。			
53	ベンケイソウ	メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>				重点啓発	○																												遺棄・逸出	不詳	県内各地	市街地の空地、路傍。			
54	アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	特外	緊急		防除対策	○																												遺棄・逸出	南アメリカ	中部を中心に分布	湖沼、ため池、河川、水路、休耕田、湿地など。			
55	マメ	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		重点		重点啓発	○																												遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	荒地、道端、崩壊地、土手、河原、海岸、低木林、湿地など。			
56	マメ	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		その他(総)		重点啓発	○																												分散	北アメリカ東南部	県内各地	荒地、道端、市街地、空地、河原、攪乱地など。			
57	マメ	キダチコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i>				重点啓発	○																													遺棄・逸出	中国	県内各地	道路法面。	在来種コマツナギとして緑化目的で中国から導入されたものの。	
58	マメ	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>		産業		産業管理	○	○																												遺棄・逸出	北アメリカ	東・中・西部の一部	市街地、荒地、土手、自然林、植林地、溪流沿い、河原、海岸、耕作放棄地、草原、岩地など。		
59	マメ	ナヨクサフジ	<i>Vicia villosa</i> subsp. <i>varia</i>		産業		産業管理	○	○																												遺棄・逸出	ヨーロッパ・西アジア	中部を中心に分布	道端、河川敷、草地、畑地、牧草地、樹園地、荒地など。	本種を含む外来クサフジ類が生態系被害防止外来種リストで産業管理外来種に指定されている。	
	バラ	ピラカンサ属※9	<i>Pyracantha</i> spp.																																							
60	バラ	タチバナモドキ	<i>Pyracantha angustifolia</i>		その他(総)		重点啓発	○																														遺棄・逸出	中国中南部	東・中部の一部	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸など。	
61	バラ	トキワサンザシ	<i>Pyracantha coccinea</i>		その他(総)		重点啓発	○																													遺棄・逸出	南東ヨーロッパ～小アジア	県内散在	草原、荒地、岩の多い尾根、川岸など。		
62	イラクサ	コゴメミズ	<i>Pilea microphylla</i>		重点		重点啓発	○																													分散	南アメリカ	県内散在	低地の敷石、石垣の間、湿った岩やコンクリートの隙間。		
63	カバノキ	オオバヤシヤブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>				重点啓発	○																													遺棄・逸出	本州(福島県南部～和歌山県の太平洋側)、伊豆諸島	県内各地	海岸近くの山地から丘陵のやせ地、崩壊地など。	緑化樹として用いられる。	
64	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	特外	緊急		防除対策	○																													混入、分散	北アメリカ	中部の一部	林縁、荒地、河原、道端、原野、畑地、樹園地、造林地など。		
65	カタハミ	イモカタハミ	<i>Oxalis articulata</i>				重点啓発	○																													遺棄・逸出	南アメリカ	県内各地	庭、畑地、樹園地、空地、路傍など。		
66	カタハミ	ベニカタハミ	<i>Oxalis braziliensis</i>				重点啓発	○																													遺棄・逸出	南アメリカ	県内散在	庭、畑地、樹園地、空地、路傍など。		

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ファースト100※4		高知県内で注意すべき外来種リストカテゴリ※5	評価項目※6													侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考							
						世界	日本		定着段階※7			生態系被害	分布拡大			重要地域	社会被害	逸出拡散	対策の実効性・可能性	由来													
									分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用		消滅・根絶	未定着	定着可能性					導入可能性	競争						捕食・摂食	繁殖力	気候・環境適合性	永続性	国内	国外	
67	カタバミ	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis debilis</i> subsp. <i>corymbosa</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	南アメリカ	県内各地	庭、畑地、樹園地、空地、路傍など。	
68	カタバミ	オオキバナカタバミ	<i>Oxalis pes-caprae</i>		その他(総)			重点啓発	○																				遺棄・逸出	南アフリカ	県内散在	森林、草原、川岸、海岸、畑地、庭園、牧草地、樹園地、荒地、市街地、道端など。	
69	トウダイグサ	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>		その他(総)			重点啓発	○																				遺棄・逸出	中国	県内各地	森林、草地、攪乱地、湿地、河川、水路など。	
70	ミカンソウ	チュウゴクアカギ	<i>Bischofia javanica</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	アジア熱帯～オーストラリア、沖縄	東部の一部	植栽地周辺。	街路樹などに用いられている。
71	フウロソウ	ヒメフウロ	<i>Geranium robertianum</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	北半球の温帯	中部	人家近くの路傍など。	四国では剣山・石立山の石灰岩地帯に自生する。
72	ミノハギ	ホソバヒメミノハギ	<i>Ammannia coccinea</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	水田、湿地。	
73	アカバナ	ヒレタゴボウ	<i>Ludwigia decurrens</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	水田、湿地。	
74	アカバナ	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	道端、荒地。	
75	アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>		重点			重点啓発	○																				分散	北アメリカ東部	県内各地	道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸、河原など。	
76	ニガキ	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>		重点			重点啓発	○																				遺棄・逸出	中国	県内散在	路面や舗道の隙間、河原、荒地、土手、林縁、耕作放棄地、草地、岩地など。	
77	アオイ	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>				○	重点啓発	○																				遺棄・逸出	インド	県内散在	畑地。	
78	アオイ	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>		その他(総)			重点啓発	○																				遺棄・逸出	中国中部	県内散在	人家近くの道端や石垣の隙間、河原、海岸近くの谷沿いの林縁など。	
79	アオイ	キンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	東南アジア	県内各地	畑地、畦畔、道端、荒地など。	
80	アオイ	アメリカキンゴジカ	<i>Sida spinosa</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	畑地、畦畔、道端、荒地など。	
81	アブラナ	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>		その他(総)		○	重点啓発	○																				分散	ヨーロッパ・西アジア・ヒマラヤ	東・中・西部の一部	畑地、水田、水路端、畦畔、牧草地、荒地、草地、道端、河岸、山地の林道沿いなど。	
82	アブラナ	セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内各地	河原、河川敷、畑地、線路沿い、路傍、荒地など。	
83	アブラナ	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>		重点			重点啓発	○																				遺棄・逸出	ヨーロッパ・中央アジア	県内各地	水田、河川、溝、水路、流れのある沼、湧水のある池、湖畔から山間の渓流などの水辺から水中。	
84	タデ	オオイタドリ	<i>Fallopia sachalinensis</i>					重点啓発	○																				遺棄・逸出	本州中部以北	県内散在	山間部の林道沿い。	
85	タデ	ヒメツルソバ	<i>Persicaria capitata</i>		その他(総)			重点啓発	○																				遺棄・逸出	中国南部～ヒマラヤ	県内各地	市街地や民家周辺の庭先や石垣、コンクリートの隙間。	
86	タデ	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i> subsp. <i>pyrenaicus</i>		その他(総)			重点啓発	○																				分散	ユーラシア	県内散在	芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地、畑地など。	
87	タデ	アレチギンギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>					重点啓発	○																				分散	ユーラシア	県内各地	牧草地、樹園地、畑地、路傍、荒地、草原、低木林、市街地、森林、川岸、湿地など。	
88	タデ	ナガバギンギシ	<i>Rumex crispus</i>		その他(総)			重点啓発	○																				分散	ユーラシア	県内散在	牧草地、樹園地、畑地、路傍、荒地、草原、低木林、市街地、森林、川岸、湿地など。	
89	タデ	エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		その他(総)			重点啓発	○																				分散	ヨーロッパ	県内散在	牧草地、樹園地、芝地、畑地、道端、河岸、荒地、林地など。	

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		高知県内で注意すべき外来種リスト※5	評価項目※6																侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考		
						世界	日本		定着段階※7				生態系被害	分布拡大				重要地域	社会被害	逸出拡散	対策の実効性・可能性	由来									
									分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶		未定着	定着可能性	導入可能性	競争					交雑	捕食・摂食	分散能力						繁殖力	気候・環境適合性
90	ナデシコ	ムシトリナデシコ	<i>Silene armeria</i>		その他(総)			重点啓発	○																遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内各地	河川敷、海岸、市街地、荒地、道端など。			
91	ナデシコ	シロバナマンテマ	<i>Silene gallica var. gallica</i>		その他(総)			重点啓発	○																	遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内散在	海浜の砂地や疎林、埋立地、路傍の草地、河川敷、畑地、荒地、市街地、牧草地など。	生態系被害防止外来種リストではマンテマと記載されているが、これにはマンテマとシロバナマンテマの両種を含むとしている。	
92	ナデシコ	ノハラツメクサ	<i>Spergula arvensis</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内散在	畑地など。		
93	ヒユ	ホソバツルノゲイトウ	<i>Alternanthera denticulata</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	水田、休耕地、湿地、河原など。		
94	ヒユ	ツルノゲイトウ	<i>Alternanthera sessilis</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	南アメリカ	県内各地	水田、休耕地、湿地、河原など。		
95	ヒユ	ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	草地、畑地、荒地、河川敷など。		
96	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	特外	緊急			定着予防																		—	南アメリカ	—	湖沼、河川、水路、水田、溝、湿地、畑地、道路、空地など。	徳島県で確認されている。	
97	ヒユ	ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	畑地、牧草地、道端、荒地など。		
98	ヒユ	ノゲイトウ	<i>Celosia argentea</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	畑地、道端、河原、荒地など。		
99	ハマミズナ	カルボプロツス・キレンシス (バクヤギク)	<i>Carpobrotus chilensis</i>		重点			重点啓発	○																	遺棄・逸出	南アフリカ	東部の一部	海岸の砂丘や崖、塩湿地、低木林、草原、路傍、攪乱地など。		
100	スベリヒユ	ヒメマツバボタン	<i>Portulaca pilosa</i>		重点			重点啓発	○																	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内散在	乾燥した日当たりの良い道端、敷石の間、畑、砂地、樹園地、荒地など。		
101	サボテン	ウチワサボテン属	<i>Opuntia</i> spp.		重点			防除対策	○																	遺棄・逸出	アメリカ大陸	県内散在	海岸、河原、草原、牧草地、攪乱地、低木林、乾燥した森林、岩地など。	ウチワサボテン属のセンニンサボテン・ウチワサボテンおよび花や果実がなく種の同定ができなかったものを含む。	
102	マタタビ	オニマタタビ (キウイ)	<i>Actinidia chinensis</i>		産業			産業管理	○	○																遺棄・逸出	中国長江流域	県内散在	雑木林、クロマツ林、耕作放棄地、河川敷、ため池の土手など。		
103	キョウチクトウ	フウセントウワタ	<i>Gomphocarpus physocarpus</i>					重点啓発	○																	遺棄・逸出	南アフリカ	県内散在	人家近くの路傍、畑地など。		
104	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>		重点			重点啓発	○																	遺棄・逸出	南ヨーロッパ・北アフリカ	県内各地	森林、草原、河川敷、海岸砂丘など。		
105	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i>		その他(総)			重点啓発	○																	分散	メキシコ中央部〜グアテマラ	県内各地	畑地、樹園地、牧草地、道端、荒地、河原、砂浜、礫浜、造成地、法面、栽培植物の上など。	ツル性の寄生植物。	
	ヒルガオ	外来ノアサガオ類※9	<i>Ipomoea</i> spp.																												
106	ヒルガオ	マルバルコウ	<i>Ipomoea coccinea</i>		重点			重点啓発	○																	分散	熱帯アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
107	ヒルガオ	アメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea var. hederacea</i>		重点			重点啓発	○																	分散	熱帯アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
108	ヒルガオ	マルバアメリカアサガオ	<i>Ipomoea hederacea var. integruscula</i>		重点			重点啓発	○																	分散	熱帯アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
109	ヒルガオ	マメアサガオ	<i>Ipomoea lacunosa</i>		重点			重点啓発	○																	分散	北アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
110	ヒルガオ	マルバアサガオ	<i>Ipomoea purpurea</i>		重点			重点啓発	○																	分散	熱帯アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
111	ヒルガオ	イモネノホシアサガオ	<i>Ipomoea trichoarpa</i>		重点			重点啓発	○																	分散	北アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ファースト100※4		評価項目※6																		侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考				
						世界	日本	定着段階※7					生態系被害		分布拡大			重要地域	社会被害	経済・産業	逸出拡散	付着混入	対策の実効性・可能性	由来										
								高知県内で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	分布拡大/まん延	定着初期/限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑							捕食・摂食	分散能力						繁殖力	気候・環境適合性	永続性	国内
112	ヒルガオ	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>		その他(総)			重点啓発	○																				分散	南アメリカ	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
113	ヒルガオ	ハリアサガオ	<i>Ipomoea turbinata</i>		重点			重点啓発	○																				分散	熱帯アメリカ	中部の一部	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
114	ヒルガオ	イリオモテアサガオ	<i>Ipomoea sp.</i>		重点			重点啓発	○																				遺棄・逸出	東南アジア～オーストラリア(ノアサガオ)	県内各地	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地、道端、川岸など。		
	ナス	外来ホオズキ属※9	<i>Physalis spp.</i>																															
115	ナス	フウリンホオズキ	<i>Physalis acutifolia</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	中部の一部	畑地、草地、路傍など。		
116	ナス	ヒロハフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata var. angulata</i>					重点啓発	○																				分散	熱帯アメリカ	県内各地	畑地、草地、路傍など。		
117	ナス	ホソバフウリンホオズキ	<i>Physalis angulata var. lanceifolia</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	東・中部の一部	畑地、草地、路傍など。		
118	ナス	ヒメセンナリホオズキ	<i>Physalis pubescens</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	県内散在	畑地、草地、路傍など。		
	ナス	外来イヌホオズキ属※9	<i>Solanum spp.</i>																															
119	ナス	テリミノイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	県内各地	河川敷、畑地、林縁など。		
120	ナス	オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>					重点啓発	○																				分散	南アメリカ	県内各地	河川敷、畑地、林縁など。		
121	ナス	アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptychanthum</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	県内散在	河川敷、畑地、林縁など。		
122	モクセイ	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i>					重点啓発	○																				分散	琉球、台湾、中国、フィリピン、インド	東・中部の一部	市街地の草地、道端など。	公園や住宅の植栽樹として多用されている。	
123	オオバコ	マツハウラン	<i>Nuttallanthus canadensis</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	県内各地	道端、芝生、草地、河川敷など。		
124	オオバコ	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>					重点啓発	○																				分散	北アメリカ	県内各地	道端、芝地など。		
125	オオバコ	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	特外	緊急			防除対策	○																				分散	ヨーロッパ～アジア北部	中部の一部	湿地、河川、水田、水路、湖沼など。		
126	タヌキモ	オオバナイトタヌキモ	<i>Utricularia gibba</i>		重点			重点啓発	○																				分散	東南アジア、オーストラリア、アフリカ、アメリカ大陸等に分布	中部の一部	池沼、ため池、湿地、水路など。		
127	キツネノマゴ	ヤナギバルライソウ	<i>Ruellia simplex</i>		その他(総)			重点啓発	○																				遺棄・逸出	メキシコ	県内各地	河原や空地等の礫地や道路の舗装の隙間、湖岸や林地など。		
128	クマツヅラ	シチヘンゲ	<i>Lantana camara subsp. aculeata</i>		重点	○		重点啓発	○																				遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内各地	市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、森林、原野、湿地など。		
129	クマツヅラ	ヒメイワダレソウ	<i>Phyla canescens</i>		重点			重点啓発	○																				遺棄・逸出	南アメリカ	県内散在	牧草地、湿地、草地、水路、氾濫原など。	植物体の断片で繁殖する。	
130	クマツヅラ	ヤナギハナガサ	<i>Verbena bonariensis</i>		その他(総)			重点啓発	○																				遺棄・逸出	南アメリカ	県内散在	道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地、畑地、樹園地、牧草地、林縁、港湾など。		
131	クマツヅラ	アレチハナガサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		その他(総)			重点啓発	○																				分散	南アメリカ	県内散在	道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地、畑地、樹園地、牧草地、林縁、港湾など。		
132	クマツヅラ	ダキバアレチハナガサ	<i>Verbena x incompta</i>		その他(総)			重点啓発	○																				分散	南アメリカ	県内散在	道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地、畑地、樹園地、牧草地、林縁、港湾など。		

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ファースト100※4		評価項目※6																侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考									
						世界	日本	定着段階※7							生態系被害				分布拡大				重要地域						社会被害	逸出拡散	対策の実効性・可能性	由来					
								高知県内で注意すべき外来種リストカテゴリー※5	分布拡大/まん延	定着初期/限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	分散能力	繁殖力	気候・環境適合性	永続性										国内	国外				
133	クマツヅラ	ヒメクマツヅラ	<i>Verbena litoralis</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	(○)	○	◎	-	○	分散	北アメリカ	県内各地	道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地、畑地、樹園地、牧草地、林縁、港湾など。		
134	キク	カッコウアザミ	<i>Ageratum conyzoides</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	○	-	(◎)	○	-	-	○	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	県内散在	畑地、道端、空地、樹園地、牧草地、荒地、林縁など。		
135	キク	ブタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i>					重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	○	-	○	○	-	◎	-	○	分散	北アメリカ	県内各地	畑地、牧草地	
136	キク	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>		重点		○	重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	○	-	○	○	-	◎	-	○	分散	北アメリカ	県内散在	畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原、樹園地、路傍、埋立地など。	
137	キク	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	-	◎	-	◎	-	○	分散	北アメリカ	県内各地	湿った草地、川岸、水田、水路、休耕田、牧草地、樹園地、路傍、荒地、畑地など。	
138	キク	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa var. pilosa</i>					重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	○	○	-	○	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、荒地など。	
139	キク	コシロセンダングサ(シロセンダングサ)	<i>Bidens pilosa var. minor</i>					重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	○	○	-	○	-	○	遺棄・逸出	暖帯～熱帯	県内各地	畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、荒地など。	
140	キク	オオバナノセンダングサ(タチアワユキセンダングサ)	<i>Bidens pilosa var. radiata</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	○	○	-	○	-	○	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	東・中部の一部	道端、畑地、空地など。	
141	キク	ノジギク	<i>Chrysanthemum japonense</i>					重点啓発	○									○	◎	-	◎	◎	◎	-	○	-	○	○	-	○	○	遺棄・逸出	日本	東部	海岸、沿岸域の道端、耕作地周辺。	県中部～西部に自生。東部は移入されたもの。シオギクと交雑。	
142	キク	イエギク	<i>Chrysanthemum morifolium</i>		その他(総)			重点啓発	○									○	◎	-	○	○	○	○	◎	○	-	◎	-	-	○	遺棄・逸出	中国	東・中部、嶺北の一部	人家近くの路傍など。		
143	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	特外	緊急		○	防除対策	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	○	-	-	-	-	-	○	○	遺棄・逸出	北アメリカ	全旧市町村	河川敷、道路沿い、海岸など。	
144	キク	ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	-	○	-	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ西部	県内各地	河川敷の草地、路傍、空地など。		
145	キク	アメリカカタサブロウ	<i>Eclipta alba</i>					重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	-	-	-	○	-	-	○	遺棄・逸出	不詳	県内各地	水田、畦畔、道端など。		
146	キク	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		その他(総)		○	重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	◎	-	○	-	-	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ	全旧市町村	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、草原など。		
147	キク	ペラペラヨメナ	<i>Erigeron karvinskianus</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	○	○	-	-	○	-	-	○	遺棄・逸出	中央アメリカ	県内各地	石垣の隙間、川沿いの崖、自然の岩場など。		
148	キク	ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>					重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	○	-	-	-	-	-	-	○	分散	北アメリカ	県内各地	道端、空地、沿海の砂地や河原など。		
149	キク	ケナンヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	○	○	-	-	-	-	-	○	分散	北アメリカ	県内各地	道端、空地、沿海の砂地や河原など。		
150	キク	ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>					重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	○	-	-	-	-	-	-	○	分散	熱帯アメリカ	県内各地	圃場や農家のごみ捨て場、道端など。		
151	キク	チチコグサモドキ	<i>Gamochaeta pensylvanica</i>					重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	○	-	-	-	-	-	-	○	分散	熱帯アメリカ	県内各地	路傍、草地など。		
152	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	特外	緊急			防除対策	○									◎	x	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	-	-	○	○	遺棄・逸出	中央・南アメリカ	中部の一部	湖沼、河川、水路、ため池、湿地の水中や水際。		
153	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	◎	-	(◎)	○	◎	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ	県内散在	畑地、牧草地、路傍、空地、原野、草地、開けた林地など。		
154	キク	ツルヒヨドリ	<i>Mikania micrantha</i>	特外	緊急			定着予防						○	○			◎	-	-	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	◎	-	○	-	熱帯アジア～熱帯アフリカ	-	畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地、海岸、湿地、水辺、攪乱地、市街地、森林、林縁など。	土壌と接した節や、茎の破片の節から発根し、増殖する。	
155	キク	アラゲハンゴンソウ	<i>Rudbeckia hirta var. pulcherrima</i>		その他(総)			重点啓発	○									◎	x	-	◎	◎	◎	○	◎	-	-	○	◎	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	造成地、法面、牧場、山岳道路沿いなどの排水の良い砂地など。		

■植物※

番号	科名※1	種名※1	学名※1	外来生物法区分※2	生態系被害防止外来種リスト区分※3	侵略的外来種ワースト100※4		評価項目※6																	侵入・導入経路※8	主な原産地	県内における分布	生育環境	備考							
						世界	日本	定着段階※7							生態系被害			分布拡大				重要地域	社会被害	逸出拡散						対策の実効性・可能性	由来					
								高知県内で注意すべき外来種リストカテゴリ※5	分布拡大／まん延	定着初期／限定分布	産業利用	消滅・根絶	未定着	定着可能性	導入可能性	競争	交雑	捕食・摂食	分散能力	繁殖力	気候・環境適合性										永続性	国内	国外			
156	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	特外	緊急			防除対策	○									◎	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	○	○	遺棄・逸出	北アメリカ	中部の一部	路傍、荒地、河原、湿原など。	頭花がほとんど舌状花からなる八重咲きのヤエザキハンゴンソウを含む。
157	キク	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	特外	緊急			防除対策	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	-	-	○	○	分散	東アフリカ	東～西部の沿岸地域	海辺の埋立地、空地、道路法面、草原、放棄水田、河川など。	
158	キク	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		重点		○	重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	◎	-	○	○	-	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地など。	
159	キク	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i>					重点啓発	○									◎	-	○	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	◎	-	-	○	分散	南アメリカ	県内各地	公園や河川敷の芝地。	
160	キク	アメリカハマグルマ	<i>Sphagneticola trilobata</i>		緊急	○		定着予防	○		○	○	○					◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	-	○	◎	-	○	○	遺棄・逸出	熱帯アメリカ	東部の一部	農耕地、海岸砂丘、森林、草原、河原、低木林、湿地など。	過去に県東部で生育が確認されていたが、駆除活動により生育個体群は根絶された。それ以降、生育は確認されていない。
161	キク	ホウキギク	<i>Symphyotrichum subulatum</i> var. <i>subulatum</i>					重点啓発	○									◎	○	-	◎	◎	◎	○	○	-	-	○	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	湿った道端や荒地、海岸の塩性土。		
162	キク	ヒロハホウキギク	<i>Symphyotrichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>					重点啓発	○									◎	○	-	◎	◎	◎	○	○	-	-	○	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ	県内各地	湿った道端や荒地、海岸の塩性土。		
	キク	外来性タンポポ種群※9	<i>Taraxacum</i> spp.																																	
163	キク	アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>		重点		○	重点啓発	○									◎	◎	-	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	-	○	分散	ヨーロッパ	県内各地	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場など。	
164	キク	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		重点		○	重点啓発	○									◎	◎	-	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	-	○	遺棄・逸出	ヨーロッパ	全旧市町村	市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場など。		
165	キク	オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		その他(総)		○	重点啓発	○									◎	◎	-	◎	◎	◎	○	-	-	◎	-	◎	-	○	分散	メキシコ	県内各地	畑地、牧草地、樹園地、空地、河川、道端、荒地、原野など。	
166	ウコギ	ウチワゼニクサ	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>		重点			重点啓発	○									◎	-	-	◎	◎	◎	○	○	-	-	○	-	-	○	遺棄・逸出	北アメリカ南部	県内散在	湖沼、ため池、水路、水田、湿地など。	節を含む断片から再生する。
167	ウコギ	ブラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	特外	緊急			定着予防										◎	-	-	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	-	◎	-	○	-	南アメリカ	-	湖沼、河川、水路、水湿地など。	根茎の断片から発根し、繁殖する

※本リストは、「平成30年度外来種(植物)生育分布調査委託業務報告書」(高知県、平成31年3月)で作成された「高知県に分布する生態系被害防止外来種リスト掲載の懸念される影響等」一覧表を基に作成した。

高知県で確認されている植物の外来種は「高知県の外来植物2019」(高知県立牧野植物園、2019)を参照されたい。

※1 種名・学名等は、「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList) <http://ylist.info/>および生態系被害防止外来種リスト(2015年3月)に準拠した。

※2 外来生物法区分

特外: 外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※3 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入: 侵入予防外来種、重点: 重点対策外来種、産業: 産業管理外来種、緊急: 緊急対策外来種、その他(定): その他の定着予防外来種、その他(総): その他の総合対策外来種

※4 侵略的外来種ワースト100

世界: 世界の侵略的外来種ワースト100 日本: 日本の侵略的外来種ワースト100

※5 高知県内で注意すべき外来種カテゴリ

防除対策: 防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発: 重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理: 産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防: 定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※6 評価項目

定着段階、定着可能性、対策の実効性・可能性

「○」: 該当する

生態系被害、分布拡大・拡散、重要な地域への影響、社会被害、逸出・拡散

「◎」: 情報があり、その評価基準について「強い」「高い」「大きい」又は「可能性が高い」といえる。

「○」: 情報があり、その評価基準について「ある」又は「可能性がある」といえる。

「×」: 情報があり、その評価基準について「基準を満たさない」「ない」といえる。

「-」: 情報がないもしくは収集できていない、又は「×」とは確定できない。

※7 定着段階

分布拡大～まん延期: 本県の多くの地域に定着しているが定着が全域には拡大していない種。本県のほとんどの市町村で定着が確認されている種及び生育可能な立地・環境のほとんどで定着が確認されている種。

定着初期／限定分布: 本県への定着が一部地域に限られている種。県全域への定着地域の拡大のおそれがあるが現時点では大規模な拡大は確認されていない種及び定着後の年月は長い潜在的に定着可能な範囲に対して分布が限定的な種を含む。

産業利用: 本県において産業または公益的役割において重要となっており、代替がないなど、利用していかざるを得ない種。

消滅・根絶: 過去において本県に侵入し野生化した種が、消滅または根絶した種。

未定着: 飼育・栽培されているものも含め、現時点では定着の情報が無い種。野外での確認記録が少数あるが継続した繁殖が確認されていない種(動物)、逸出の記録が少数ある種(植物)も含む。

※8 侵入(導入)経路

分散: 侵入地から自立的に分布域を拡大したとされる種

遺棄・逸出: 意図的に導入された種が意図的に野外に逃がされたとされる種(遺棄)、または管理下から非意図的に出た種(逸出)

混入: 植物や木材等に偶発的に付着あるいは潜伏していた個体が侵入地を生育域とした種

導入: 天敵等として導入された後、自立的に分散した種

※9 本リストに掲載の無い同属の外来種も該当する。

卷末資料 2 外来種対策に関する情報

巻末資料2 外来種対策に関する情報 (1/5)

分類群	種名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリ※4	対策事例	対策・防除・生態に関する主な情報源※5
				世界	日本			
哺乳類	ヌートリア	特外	緊急	○	○	定着予防	・田畑周辺・巣穴周辺の草の狩り払い。 ・ネット・金網・電気柵による侵入防止。 ・箱ワナ・銃器による捕獲。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ニートリア https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10140.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 https://www.env.go.jp/nature/intro/index.html
哺乳類	ハツカネズミ		重点	○		重点啓発	・殺鼠剤(抗凝血剤など運動性の毒物)の使用。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ハツカネズミ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10130.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
哺乳類	クマネズミ		緊急	○		重点啓発	・本種の餌が不足する冬季における毒餌の散布。 ・抗凝血剤など運動性の毒物の使用。	◆国立環境研究所侵入生物データベース アライグマ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10120.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
哺乳類	ドブネズミ		重点			重点啓発	・殺鼠剤(抗凝血剤など運動性の毒物)の使用。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ドブネズミ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10110.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
哺乳類	アライグマ	特外	緊急		○	定着予防	・早期発見に向けた情報の収集と住民への普及啓発 ・捕獲体制の準備を行う。 ・わなによる捕獲。	◆国立環境研究所侵入生物データベース アライグマ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10150.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 防除に関する手引 https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_racoon.pdf ◆千葉県生物多様性センターホームページ 千葉県における外来種対策 http://www.bdcchiba.jp/alien/ali_index.html ◆関西野生生物研究所ホームページ アライグマの研究について http://www.kansaiwildlife.com/racoon/index.html
哺乳類	ノリス(イヌの野生化したもの)		重点			重点啓発	・飼育管理の徹底。 ・マイクロチップの装着。	◆国立環境研究所侵入生物データベース イヌ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10160.html
哺乳類	シベリアイタチ				○	重点啓発	・わななどによる捕獲。	◆国立環境研究所侵入生物データベース チョウセンイタチ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10180.html
哺乳類	ハクビシン		重点			重点啓発	・わななどによる捕獲。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ハクビシン https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10200.html
哺乳類	ノネコ(イエネコの野生化したもの)		緊急	○	○	重点啓発	・飼育管理の徹底。 ・マイクロチップの装着。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ネコ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10220.html ◆環境省ホームページ 希少種とノネコ・ノラネコ https://www.env.go.jp/nature/kisho/noneko.html
鳥類	コリンウズラ		その他(総)			定着予防	・野外での利用を前提とした飼育、繁殖、放鳥の禁止。	◆国立環境研究所侵入生物データベース コリンウズラ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20040.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
鳥類	コウライキジ(大陸産亜種)		その他(総)		○	定着予防	・銃による捕獲。 ・卵の採取。	◆国立環境研究所侵入生物データベース コリンウズラ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20030.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
鳥類	ガビチョウ	特外	重点		○	定着予防	・捕獲による駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ガビチョウ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20150.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
鳥類	ヒゲガビチョウ	特外	その他(総)			重点啓発	・捕獲による駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ヒゲガビチョウ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20470.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
鳥類	ソウシチョウ	特外	重点		○	重点啓発	・捕獲による駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ソウシチョウ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/20160.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 パンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_leiothrix_shikoku.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)

巻末資料2 外来種対策に関する情報 (2/5)

分類群	種名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリ※4	対策事例	対策・防除・生態に関する主な情報源※5
				世界	日本			
爬虫類	ミシシippアカミミガメ		緊急	○	○	防除対策	・カニかごなどのわなによる捕獲。 ・飼育管理の徹底。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ミシシippアカミミガメ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30050.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 外来種の防除 防除に関する手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/r_akamimi_tebiki.pdf https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/akamimi_manual.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
両生類	ウシガエル	特外	重点	○	○	防除対策	・池干しによる卵、幼生の全滅。 ・アナゴかご(幼生)やカニかご(親)などのトラップを使用した捕獲。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ウシガエル https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/40020.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 パンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_bullfrog_shikoku.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
魚類	ハス		その他(総)			重点啓発	・産卵場所集まったハスを刺し網(7節)で採捕	◆国立環境研究所侵入生物データベース ハス https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50610.html ◆福岡県水産海洋技術センター ハスの効果的な駆除技術の開発 http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/gaiyo/shikenkenkyu.htm ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
魚類	イワナ					産業管理	・電気ショッカーによる駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース イワナ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50850.html ◆山梨県水産技術センター ブラウントラウトの完全駆除技術の開発 https://www.pref.yamanashi.jp/suisan-git/documents/jiho45_p30-39.pdf
魚類	ニジマス		産業	○	○	産業管理	・電気ショッカーによる駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ニジマス https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50150.html ◆山梨県水産技術センター ブラウントラウトの完全駆除技術の開発 https://www.pref.yamanashi.jp/suisan-git/documents/jiho45_p30-39.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
魚類	カダヤシ	特外	重点	○	○	重点啓発	・タモ網による捕獲。	◆国立環境研究所侵入生物データベース カダヤシ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50230.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 パンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_mosquitofish_shikoku.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
魚類	ブルーギル	特外	緊急		○	防除対策	・捕獲(釣り、網)。 ・水抜き、池干し。 ・電気ショッカーによる駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ブルーギル https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50310.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 外来種の防除 防除に関する手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf ◆水産庁ホームページ 誰でもできる外来魚駆除 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/pdf/gairaigyo.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
魚類	オオクチバス	特外	重点	○	○	防除対策	・捕獲(釣り、網)。 ・水抜き、池干し。 ・電気ショッカーによる駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース オオクチバス https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50330.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 外来種の防除 防除に関する手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf ◆水産庁ホームページ 誰でもできる外来魚駆除2 https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/attach/pdf/naisuimeninfo-12.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
昆虫類	農業害虫					防除対策	・農薬等による駆除	◆高知県病害虫防除所ホームページ 病害虫防除指針 https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/info/dtl.php?ID=5140
昆虫類	クビアカツヤカミキリ	特外	その他(総)			定着予防	・宿主となった樹木の伐採。 ・穿孔穴から針金による幼虫の刺殺。 ・農薬による幼虫、成虫の駆除。 ・原産地の中国では、昆虫病原性線虫を利用した生物的防除が行われている。	◆大阪府環境農林水産部農政室推進課 病害虫防除グループ ホームページ http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii(H3104).pdf ◆埼玉県環境科学国際センター ホームページ クビアカツヤカミキリ情報 https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/documents/kubiakamanual4.pdf

巻末資料2 外来種対策に関する情報 (3/5)

分類群	種名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリ※4	対策事例	対策・防除・生態に関する主な情報源※5
				世界	日本			
昆虫類	アルゼンチンアリ	特外	緊急	○	○	定着予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤、アリ駆除剤散布。 ・熱湯をかける。 ・持ち帰り型ベイト剤、道標フェロモンによる攪乱剤、散布型液剤の併用による防除。 ・発見場所における緊急駆除とモニタリング。 ・アリが集まりやすい環境をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース アルゼンチンアリ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60090.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 外来種の防除 防除に関する手引き https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_argentine.pdf ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 バンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_argentine_shikoku.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
昆虫類	アカカミアリ	特外	緊急			定着予防	<ul style="list-style-type: none"> ・殺虫剤、アリ駆除剤散布。 ・熱湯をかける。 ・持ち帰り型ベイト剤、道標フェロモンによる攪乱剤、散布型液剤の併用による防除。 ・発見場所における緊急駆除とモニタリング。 ・アリが集まりやすい環境をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース アカカミアリ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60390.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
昆虫類	ヒアリ(アカヒアリ)	特外	侵入			定着予防	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 バンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/20190314hiari.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊) 	
昆虫類	ツマアカスズメバチ		緊急			定着予防	<ul style="list-style-type: none"> ・巣の撤去。 ・トラップによる営巣前の女王バチの捕獲。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース ツマアカスズメバチ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60550.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 バンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/tsumaaka.pdf ◆ツマアカスズメバチ防除計画(九州地方環境事務所、平成28年4月) http://kyushu.env.go.jp/%E3%83%84%E3%83%9E%E3%82%A2%E3%82%AB%E3%82%B9%E3%82%BA%E3%83%A1%E3%83%90%E3%83%81%E9%98%B2%E9%99%A4%E8%A8%E7%94%BB.pdf
クモ・サソリ類	ハイロゴケグモ	特外	緊急			定着予防	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース ハイロゴケグモ・セアカゴケグモ・クロゴケグモ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70130.html https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70020.html https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70140.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 バンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_gokegumo.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊) 	
クモ・サソリ類	セアカゴケグモ	特外	緊急		○	防除対策		
クモ・サソリ類	クロゴケグモ	特外	緊急			定着予防		
その他無脊椎	マツノザイセンチュウ		その他(総)		○	防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース マツノザイセンチュウ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70040.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊) 	
その他無脊椎	スクミリンゴガイ		重点	○	○	防除対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース スクミリンゴガイ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70310.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 バンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/e_sukumiringogai.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊) 	
その他無脊椎	ムラサキイガイ		その他(総)	○	○	重点啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立環境研究所侵入生物データベース ムラサキイガイ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70290.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊) 	

巻末資料2 外来種対策に関する情報 (4/5)

分類群	種名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリ※4	対策事例	対策・防除・生態に関する主な情報源※5
				世界	日本			
その他無脊椎	ミドリイガイ		その他(総)			重点啓発	・付着した個体群の除去。 ・モニタリングによる早期発見と駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ミドリイガイ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70280.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
その他無脊椎	コウロエンカワヒバリガイ		その他(総)			○ 重点啓発	・付着箇所のクリーニング。 ・モニタリングによる早期発見と駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース コウロエンカワヒバリガイ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70370.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
その他無脊椎	タイワンシジミ種群		その他(総)			重点啓発	・他の水系への放流の禁止。	◆国立環境研究所侵入生物データベース タイワンシジミ種群 https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70270.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
その他無脊椎	イガイダマシ		その他(総)			重点啓発	・低温に弱いため、寒冷年の最寒冷期に工場などの熱排水施設での排水を停止するなどして凍死させるなど。 ・オーストラリアでは侵入されたマリナを閉鎖し、塩素と硫酸銅を散布して駆除した。	◆国立環境研究所侵入生物データベース イガイダマシ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70380.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
その他無脊椎	カサネカンザシ		その他(総)			○ 重点啓発	・付着した個体群の除去。 ・モニタリングによる早期発見と駆除。	◆国立環境研究所侵入生物データベース カサネカンザシ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70410.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
その他無脊椎	アメリカザリガニ		緊急			○ 重点啓発	・カニかごなどによる捕獲。 ・生息する池や濠、ビオトープの水抜き。	◆国立環境研究所侵入生物データベース スクミリンゴガイ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70320.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 パンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/b_zarigani.pdf ◆千葉県生物多様性センターホームページ 千葉県における外来種対策 http://www.bdcchiba.jp/alien/ali_index.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	ボタンウキクサ	特外	緊急			○ 防除対策	・物理的な除去(生育地からの植物体の除去)	◆国立環境研究所侵入生物データベース ボタンウキクサ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80790.html ◆農林水産省ホームページ 外来植物の早期発見と防除 https://www.maff.go.jp/j/pr/annual/pdf/nousin_04.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	アオノリュウゼツラン		重点			防除対策	・掘り取りと根茎の除去(小型株)。 ・葉を地表近くで切除し、すぐに切り口に除草剤を塗布または注入する。	◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	ホテイアオイ		重点			○ 防除対策	・物理的な除去(冬期の越冬株の除去)。 ・重機や網などを用いた除去、浸漉。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ホテイアオイ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80810.html ◆農林水産省ホームページ 外来植物の早期発見と防除 https://www.maff.go.jp/j/pr/annual/pdf/nousin_04.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	アツミゲン		その他(総)			防除対策	・自生している個体を発見した場合は、最寄りの警察署または福祉保健所、高知県健康政策部医事業務課、四国厚生支局麻薬取締部へ連絡して対応を確認する。	◆高知県健康政策部医事業務課ホームページ https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/132101/husei-taima.html
植物	オオフサモ	特外	緊急			○ 防除対策	・物理的な除去(冬期の越冬株の除去)。 ・重機や網などを用いた除去、浸漉。	◆国立環境研究所侵入生物データベース オオフサモ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80250.html ◆農林水産省ホームページ 外来植物の早期発見と防除 https://www.maff.go.jp/j/pr/annual/pdf/nousin_04.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	アレチウリ	特外	緊急			○ 防除対策	・土壌処理剤、茎葉処理剤、結実前の刈り取りといった機械的防除法の併用。 ・河岸を掘削して地盤を低くし、増水時に冠水する場所を創出するなどの予防策。	◆国立環境研究所侵入生物データベース アレチウリ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80220.html ◆国土交通省北陸地方事務所千曲川河川事務所 千曲川における外来種 http://www.hrr.mlit.go.jp/chikuma/kankyo/gairaihu/index.html ◆長野県ホームページ アレチウリ駆除大作戦 https://www.pref.nagano.lg.jp/mizutaiki/kurashi/shizen/mizukankyo/archiuri/index.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)

巻末資料2 外来種対策に関する情報 (5/5)

分類群	種名	外来生物法区分※1	生態系被害防止外来種リスト区分※2	侵略的外来種ワースト100※3		高知県で注意すべき外来種リストカテゴリ※4	対策事例	対策・防除・生態に関する主な情報源※5
				世界	日本			
植物	ウチワサボテン属		重点				・刈り取り、掘り取りによる駆除。 ・除草剤等の薬剤を茎に注入する。(果実成長前が効果的) ・刈り取り後の除草剤の散布。 ・剪定枝や刈り取り後の不要株の野外投棄の禁止。	◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	オオカワヂシャ	特外	緊急				・抜き取り。 ・洪水攪乱体制の復元等。	◆国立環境研究所侵入生物データベース オオカワヂシャ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81130.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	オオキンケイギク	特外	緊急		○		・開花結実前の抜き取り、刈り取り。(年1~2回で開花減少、年3~4回でひどが減少) ・表土の剥ぎ取り、地盤の切り下げ。	◆国立環境研究所侵入生物データベース オオキンケイギク https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80490.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 パンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/p_okinkeigiku_zenkoku.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	ミズヒマワリ	特外	緊急				・物理的な除去。 ・わずかな部位からクローン成長するため、ちぎれないように慎重に引き抜いて除去するか底の土壌を深く掘り取り除去。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ミズヒマワリ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81120.html ◆農林水産省ホームページ 外来植物の早期発見と防除 https://www.maff.go.jp/j/pr/annual/pdf/nousin_04.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	オオハンゴンソウ	特外	緊急				・開花結実前の抜き取り、刈り取りを複数年実施。	◆国立環境研究所侵入生物データベース オオハンゴンソウ https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80580.html ◆環境省ホームページ 日本の外来種対策 広報・写真・会議等の資料 パンフレット・リーフレット https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/r_ohangoso.pdf ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)
植物	ナルトサワギク	特外	緊急				・開花結実前の抜き取り、刈り取りを複数年実施。	◆国立環境研究所侵入生物データベース ナルトサワギク https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81060.html ◆農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所ホームページ https://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/fireweed.html ◆最新日本の外来生物(自然環境研究センター編著、平凡社刊)

※1 外来生物法区分

特外: 外来生物法に基づく特定外来生物(2018年4月1日時点)

※2 生態系被害防止外来種リスト区分

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(2015年3月26日時点)

侵入: 侵入予防外来種、重点: 重点対策外来種、産業: 産業管理外来種、緊急: 緊急対策外来種、その他(定): その他の定着予防外来種、その他(総): その他の総合対策外来種

※3 侵略的外来種ワースト100

世界: 世界の侵略的外来種ワースト100 日本: 日本の侵略的外来種ワースト100

※4 高知県内で注意すべき外来種カテゴリ

防除対策: 防除対策外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、重要な地域に生息・生育するなど特に緊急性が高く、各主体のそれぞれの役割において積極的に防除を行う必要がある種。

重点啓発: 重点啓発外来種。本県に定着が確認されている外来種のうち、今後甚大な被害が予想され、各主体のそれぞれの役割において防除(野外での取り除き、分布拡大の防止など)、遺棄・導入・逸出防止などのための普及啓発を行い、必要に応じて防除などの対策を行う種。

産業管理: 産業管理外来種。本県の産業または公益的役割において重要であり、現状では生態系などへの影響がより小さく、同程度程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出などの防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

定着予防: 定着予防外来種。本県に未定着の外来種、または四国内など近隣で定着が確認されている外来種。定着した場合に生態系などへの被害の恐れがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。

※5 ホームページのURLは2020年3月3日時点